

2012年度 年 報
—自己点検・評価報告書—

天使大学大学院助産研究科

はじめに

本学大学院助産研究科では、カトリック大学として「愛をとおして真理へ」の建学の理念を反映した教育によって、専門職助産師及び助産教育者の育成に努めております。

2012 年度、本学大学院助産研究科は、助産基礎分野において 2 年課程の助産師教育開設から 9 年目、助産教育分野では助産教育者・指導者育成を始めて 5 年目を迎えました。

その間、2008 年には日本助産評価機構の認証評価を受審し、適合を受けました。また、学内においては自己点検評価委員会を中心に、助産教育の充実に向け、また各委員会の活動の点検評価を行っています。

今後とも、自らの教育活動を省み、助産の実践家育成に向けてより一層の努力をしてゆきたいと考えています。

ここに、2012 年度年報をお届けいたします。本年報にお目通り頂き、皆様のご指摘、ご批判を頂きたく存じます。教職員一同、さらなる改善に向けて努力する所存であります。ご指導のほどよろしくお願い申し上げます。

2014 年 11 月

天使大学大学院助産研究科

科 長 園 生 陽 子

自己点検・評価報告書

目 次

I. 教育課程	1
II. 院生の受け入れ	2
III. 教員組織	3
IV. 研究活動・研究環境	4
V. F D活動等	5
VI. 社会貢献	6
VII. 国際交流	7
VIII. 学生生活・就職支援	8
IX. 図書館	9
X. 情報処理システム	10
XI. 施設・設備	11
XII. 管理運営	12
XIII. 財務	13
XIV. 事務組織	14
XV. 自己点検・評価活動	15

I. 教育課程

担 当：教務委員会

本年度の活動目標	1. 修了時の教育目標と各科目の学習内容の確認、科目間の連動の調整。 2. 自主的な学習を支援する授業・実習の工夫。 3. 実習施設の開拓。
活動内容の評価	1. 自己学習の時間を考慮した時間割作成を行った。 院生の事前学習や課題に要する時間を考慮した時間割を、教員および学務課職員と調整・作成した。結果、自主的な学習のうえ授業に出席する院生が増えた。 2. 主要科目においてモジュール学習を実施した。 配布された学習ガイドに沿って自己学習を具体的に取り組めるよう準備、実施、フォローした。院生にとっては、テキストや文献の活用の仕方といった専門的な学習の支援を行った。 3. 教員間の担当科目における院生個々の学習習得状況とフォロー方法等の情報共有を行った。 4. 本学の理念や本助産研究科の教育目的に照らした修了面接試験の実施。 修了前に院生の学習到達の評価のため複数の教員による面接試験を行った。また、この機会に学習環境やカリキュラム等について、院生からの意見を聞き、その後の検討・改善に役立てた。 5. 実習施設の開拓のため数か所の病院看護部を訪問し実習受け入れ協力の依頼を行った。新規1施設が、次々年度の基礎実習に協力を得られる見通しとなった。
次年度への課題	1. カリキュラムの改善と効果的な学習支援の共有。 2. 実習評価の検討 3. 実習環境の充実を図る（指導教員の充足等） 4. 実習施設の開拓

II. 院生の受け入れ

担 当：入試委員会

本年度の活動目標	1. 広報活動の強化。 2. 入学者選考にかかわる基準の見直しと検討。
活動内容の評価	1. 本学看護栄養学部看護学科3年生、4年生への助産研究科説明会を開催した。 男子学生を除いた3・4年生各学年約100名の学生に、各1回、助産研究科長および広報委員教員から助産師の仕事、本学助産研究科・専門職大学院の特徴についての紹介・説明を行った。その後、進学に関心ある学生が助産研究科教員に相談にきたり、オープンキャンパスの参加増加につながっていた。 2. 本学看護栄養学科教職員に、他の助産教育機関と本大学院助産研究科・専門職大学院との違いや特徴について説明を行った。 道内各地の高校へ学校訪問を行っている本学学部教員に、助産師教育や本大学院助産研究科のカリキュラムや専門職大学院に関する情報提供を行った。学校訪問時に、助産研究科に関する質問があることから、学部教員に本大学院助産研究科について知ってもらうことは有効である。将来、助産師を志望し本学看護科に進学する学生もあることから、今後も継続していくことが必要である。 3. 看護大学5校を、本研究科専任教員が訪問し、教員および看護学生に本学助産研究科の説明を行った。 これまでに本大学院研究科に進学実績がある看護系大学を中心に、大学訪問し、教員および助産師に関心を持つ学生に本大学院助産研究科の説明を行った。訪問した大学からの入学者があったことから一定の広報効果は得られた。 4. 本学大学祭にあわせ、ミニオープンキャンパスを開催した。 本学のイベントに合わせて、オープンキャンパスを行った。二十数名の参加があった。札幌市内の看護学生の出席が多くあり、今後も継続することが望ましい。 5. オープンキャンパスでは、参加の看護学生と在学生・修了生との交流会を行った。 教員からの説明とは別に、在学生や修了生の視点から、授業や実習等の学生生活の様子を聞ける機会は参加者に好評であった。 6. 本研究科の紹介・募集のリーフレット等の送付先、掲載誌等の見直し、検討を行った。 新入生に、広報に関するアンケートに協力をいただき、広報活動の評価を行い、経済面と広報効果の検討を行い、今後の改善点が示唆された。 7. 可否判定書類から推薦書の取扱いを変更し、推薦書は、可否判定書類とせず参考資料の位置づけに止めた。
次年度への課題	1. 入学者の適切な選抜と入学後の学習支援を検討する。 2. 広報活動の強化を継続する。

Ⅲ. 教員組織

担 当：教務委員会

本年度の活動目標	1. 教員組織を強化する。 2. 新任教員の育成をはかる。
活動内容の評価	1. 教授 8 名、准教授 5 名、助教 2 名の計 15 名の組織である。 助産実践と教育者育成の能力にも優れた人材を確保することができ、30 代の助教 2 名が入職したことは、教員の平均年齢が下がり評価に値する。 2. 入職した助教 2 名は教育経験がなく（当科においてもはじめて）、21 週間のマタニティサイクル助産ケア基礎実習・統合実習Ⅰの実習指導において、1 施設 3 名の院生を一人の教員が担当しなければならない現状があり、不明な事や自分で判断できない場合は、その施設を担当経験のある教員へ PHS で相談し、問題解決にあたっていた。新任教員を育てるための指導体制や指導方法の課題が浮き彫りとなり、次年度の検討課題とする。
次年度への課題	1. 教員組織の強化（教員の離職予防）。 2. 新任教員の指導計画の検討。

IV. 研究活動・研究環境

担当：学術振興委員会

本年度の活動目標	1. 研究意欲の発揚と共同研究推進のために全学の研究報告会（定例開催）に参加する。 2. 競争的外部資金導入のための情報を収集し、提供する。 3. 学術振興に関する「よろず相談」を継続して実施し、必要に応じて研究環境整備に関する検討を行う。 4. 紀要は年2回発行とする。第13巻第1号、第2号を作成し、電子化・公開する。
活動内容の評価	1. 研究意欲の発揚と共同研究推進のために研究報告会を開催したが、前期は参加者が少数にとどまり、実施時期等について見直しが必要と思われる。学科間を越えた研究の取り組みは特別研究費で一部行われているが、全学挙げての取り組みが地域への貢献などの観点から必要と思われる。 1) 前期研究報告会の開催：2012年8月8日(水)9:30-11:30 紀要執筆者2名と新任教員1名の発表 出席24名(教職員16名、学生他8名) 2) 後期研究報告会の開催：2013年3月21日(木)9:00-12:30 出席：38名 特別研究費取得者：中間報告5件、最終報告4件(新規3件、継続6件) 2. 競争的外部資金導入のための情報収集と提供については、科研費説明会において過年度審査委員や採択者によるアドバイスを実施し、さらに以下の講演会を開催した。講師である田中氏の協力を得て、新たな取り組みへの門戸を開いた。 外部研究資金獲得のための講演会開催：2012年12月26日(水)16:30～18:30 講師：帯広畜産大学 産学官連携コーディネーター田中 一郎 氏 出席31名 今年度科研費採択件数は継続8件、新規2件の10件であり、次年度申請件数は15件である。受託研究及び事業は13件あり、総額で800万円強となった。 3. 研究環境整備に関しては、若手研究者の育成という観点から、助手の待遇改善を図るため、看護・栄養の両学科長に助手の待遇実態について聞き取り調査を行い、検討を開始した。成果としては、助手を研究代表者とする特別研究費の取得が実現し、今後の待遇改善の弾みとなることが期待され、次年度への継続課題とした。 4. 大学院生を含む若手研究者の育成の意味も込めて、紀要の年2回発行を実施し、前期は3件、後期は7件の投稿を得た。系統的学習の必要性から学内用の冊子体作成を次年度から復活させることとした。 5. 第26回日本助産学会に助産研究科全教員で、専門職大学院修了生(1～5回生)による教育評価を発表した。修了生が役立ったと答えたプログラムは、助産院や病院等の実習であった。
次年度への課題	1については研究報告会の実施時期見直しや学科間を越えた全学的研究活動の促進、2については申請件数増加のための努力、3については具体的方策の提示、4については外部査読の見直しなどが必要と思われる、いずれも次年度の課題とした。また、新たに機関リポジトリに掲載する研究情報についての検討を行うことを課題に加えた。

V. F D活動等

担 当：教務委員会

本年度の活動目標	1. 学生の授業評価アンケート結果に基づいたFD講演会を開催する 2. 学生の授業評価アンケート結果を利用した具体的な授業改善策を見出す 3. 実習において効果的な指導ができる。 4. 大学FD研修会に参加し、実践に活かすことができる。
活動内容の評価	1. 学生の授業評価アンケート結果の経年データの分析から「講義要綱（シラバス）」に関する評価が他項目に対して低いため、「シラバスとは何か」をテーマに講演会（8月）を開催した。そこで「授業・講義要綱（履修者以外不特定多数に配布）」と「シラバス（授業計画中心に履修者に配布）」に関する共通認識を得た上で、3月にシラバスを実際に作成するワークショップを開催した。学生の授業評価に基づくFD講演会が開催されたことは評価できる。 2. 教務委員会と連携し、授業評価アンケートの集計結果のアウトプット方法を2013年度より棒グラフ形式からレーダーチャート形式に変更するようにした。各自がアンケート結果を踏まえた、より具体的な授業改善ができるような方策を築いた点は評価できる。 3. 「効果的な実習指導をめざして」～実習指導の現状と課題～をテーマに、助産研究科の臨床指導者10名、実習指導教員1名、教員6名が参加してFD研修を実施した。「実習指導の現状」については、実習施設の天使病院、市立札幌病院、帯広厚生病院の臨床指導者に①実習指導で大切にしていること ②対象（学生）理解 ③実習指導の内容・方法 ④実習評価 について基調発表してもらった。その後、3グループに分かれディスカッションを行い、発表を行った。 評価として、実習指導の現状共有ができ、さらに自分の施設の課題も明確になり、FD研修の目標は達成された。 実習指導については、ICM(国際助産師連盟)のグローバル・スタンダード(助産教育の国際基準)との比較検討の必要性を認識し、次年度に研修として考えていきたい。 4. 2011年度までは大学のFD研修会には、実習のため参加することができなかったが、今年度は、2回の「シラバス作成」について細川先生の講義・グループワークに教員の殆どが参加でき、これまでの自身のシラバス作成を振り返り、課題と今後の展望を明確にすることができた。次年度は、シラバス作成の結果としての「教育評価」について学びを深め、実践に活用できる研修としたい。
次年度への課題	1. シラバス作成に必要な評価方法、授業計画案、全体カリキュラムと個別授業の関連などが残っているため、次年度は目的・目標に沿った授業の評価方法づくりに焦点を当てたい。 2. 学生の授業評価アンケート結果に基づく具体的な授業改善案として、個々の授業担当者が授業改善を毎年実践できるシステム作りとその実行が課題である。 3. ICMのグローバル・スタンダードとカリキュラムの整合性を検討する。 4. 大学FD研修会で「教育評価」について学び、助産研究科のカリキュラムの評価・検討に活かす。(実習のルーブリック評価の作成)

VI. 社会貢献

担 当：教務委員会

本年度の活動目標	1. 地域・教育機関・職能団体の活動ニーズに応じて、教員を派遣し、専門職として社会に貢献する。 2. 助産に関連する職能団体等の役割を担うことで、助産師等専門職の強化に貢献する。
活動内容の評価	1. 1) 胆振地区新人助産師教育研修会の講師を教授がつとめ、新人助産師教育の現状、課題等活発な意見交換があり、次年度の要望も出され、参加者の満足度も高く、好評価を得た。 2) 市内2校、道内1校の看護専門学校で、災害看護の授業をその分野に秀でた教授が担当し、評価を得、次年度継続依頼も受けた。 3) 日本私立看護系大学協会会長を特任教授が務め、全国における講演、研修会講師として活躍し高評価を得た。 4) 日本看護研究学会北海道地方会の監事に教授1名が就任し、継続している。 5) 北海道思春期研究会で教授1名、准教授1名が役員を務め継続している。 6) 北海道助産師会の会長・副会長の要職に教員2名が就任し、活動の充実をはかり、助産師職能団体の強化に貢献した。 2. 2012年4月30日（月）5月1日（火）5月2日（水）に渡り、第26回日本助産学会学術集会会長として研究科長が務め、全教員が運営に尽力し、全国から800余名の出席があり、成功裡に終わらせることができた。 3. 2012年10月2日から11月17日にかけて JICA 主催の地域別研修「母子保健（B）」コースを担当し、アフリカ英語圏の研修生10名を引き受けた。学内講義、地域研修（東京・神奈川、道東）を終え、多くの学びを得、高い評価を得られた。
次年度への課題	1. JICA より次年度の地域別研修「母子保健（B）」コースの依頼を受ける。 2. 次年度も引き続き、依頼を引き受け社会貢献に寄与する。

VII. 国際交流

担 当：教務委員会

本年度の活動目標	1. 国際助産実習における安全確保。 2. 国外からの母子保健・助産教育に関する研修受け入れ協力。
活動内容の評価	1. 国際助産実習をマダガスカル共和国アンチラベにあるアベ・マリア産院で行っている。 効果的な実習のためには、院生の体調管理、安全への考慮が重要である。実習支援者として、マダガスカルのアベ・マリア産院に長期在留の邦人助産師と実習経験があるベテラン助産師を同行し配置した。現地での院生の実習効果を高めた。 2. 独立行政法人国際協力機構北海道からの研修依頼を受け、アフリカ英語圏 5 か国から 10 人の助産師（臨床助産師、助産師教員、母子保健関連行政職職員等）を助産研究科で母子保健研修を行った。 研修員との交流から、改めて助産師の役割や修了生への海外での母子保健への貢献への期待を強く感じるものとなった。 研修名：地域別研修「母子保健（B）」コース 研究機関：2012 年 10 月 2 日から 11 月 17 日 研修員出身国：ガーナ、ナイジェリア、スーダン、ジンバブエ、ナミビア 主な研修内容： ・学内講義、中学校訪問（思春期教育）、臨床指導者会議出席等 ・地域研修（神奈川県、釧路市、標茶町）では、行政機関、病院、助産所、障がい者施設、過疎地における周産期医療等
次年度への課題	1. 国際助産実習の安全確保 2. 国際協力機構からの研修依頼に対する協力

VIII. 学生生活・就職支援

担 当：教務委員会（学生生活・就職）

本年度の活動目標	1. 学生生活全般への支援 2. 学生の健康支援 3. 学生生活実態調査実施 4. 学生課外活動への支援 5. 就職支援
活動内容の評価	1. 学生生活全般への支援 1) メンターシップによる学修・生活支援の充実 入学時から学生一人一人にメンター（よき助言者）となる専任教員をおき、学習進度を確認し、学生の専門職者としての自己課題の発見および成長に必要な指示、方向付け、フィードバック等の支援を行った。また、生活支援の充実のための相談役となり、支援を行った。 2) 学生の経済的支援 奨学金は、天使大学奨学金、天使大学同窓会、日本学生支援機構奨学金、日本助産師会奨学金、北海道看護職員修学資金等を紹介し経済的支援を行った。また、地方自治体や団体等の奨学事業も積極的に紹介した。 3) 学生生活ガイドブックの充実 学生生活ガイドブックを発行し、全学生・教職員へ年度初めに配布した。学生生活全般について理解できるよう学生生活ガイドブックの内容を充実させた。 4) 事件事故の予防 実習で夜遅く帰宅することが多いため、「防犯ブザー」を全学生に配布した。また、「護身術」講習を実施し、事件に遭わないよう啓発活動を行った。 災害傷害保険（日本看護学校協議会共済会の共済制度「WILL」）への加入を義務づけ、実習中等に傷害・賠償・感染事故が発生した場合の対応策をとった。 2. 学生の健康支援 1) 保健相談室の現状 学生の定期健康診断はセット検診（X線撮影、身体計測、聴力、聴打診、血液採取等）を実施した。また、季節性のインフルエンザ感染予防対策としてマタニティサイクル助産ケア統合Ⅰ実習の開始前に予防接種を実施した。 2) 学生相談室の現状 学生相談室の相談員を2名体制とし週5日の開室日を設け、月曜日から金曜日までいつでも相談を受けられる体制を継続した。 3. 学生生活実態調査「天使大学大学院生学生生活についての調査」の実施 教育分野・基礎分野2年次生に修了前に学生生活実態調査を実施した。 4. 学生課外活動への支援 1年次生が合唱コンクールに参加した。 5. 就職支援 1年次生対象に接遇ガイダンス、2年次生対象に就職ガイダンスを実施した。就職活動ガイドブックを配布した。就職相談室の活用及び周知を強化した。
次年度への課題	1. 学生生活全般の支援については、メンターシップの強化を始め、「天使大学大学院生学生生活についての調査」結果を分析し、よりよい学生生活支援を実施するためさらに検討していく。 2. 経済的支援として、各種奨学金紹介のより一層の充実を図る。 3. 健康支援については、今後も学生相談室、保健相談室の相談員と連携し、更なる充実を目指す。 4. 就職支援については、大学院生のニーズに応じた支援体制の強化が課題である。

IX. 図書館

担 当： 図書情報委員会

本年度の活動目標	1. 図書館情報管理システム LIMEDIO の外部公開用検索サーバの追加導入 2. 平日開館時間延長に伴う業務委託導入(継続) 3. LIMEDIO による蔵書点検の実施：年度内に 1 回実施(実施時期は 8 月) 4. 図書館オリエンテーションや文献検索ガイダンスの見直し 5. 過年度登録分研究費図書の処理計画作成(継続) 6. 洋雑誌の利用頻度調査結果に基づく見直しと電子ジャーナルへの切り替え実施 7. 機関リポジトリの本学に相応しいあり方の検討と実施計画の策定 8. 将来構想小委員会への参加：新館構想に向けての素案提示(情報処理室を含む)
活動内容の評価	1. LIMEDIO 用追加サーバの導入については計画どおり、2013 年 3 月に導入した。これにより、学外から所蔵検索やマイライブラリーが、さらに CINAHL 等の一部データベースが 2013 年度から利用可能となり、利便性が高まった。 2. 開館時間を 21 時 50 分まで延長して 4 年目となった。この 3 年間の利用統計や利用者アンケートの結果等から開館時間延長幅の見直しを行い、2013 年度から平日は 8 時 50 分～21 時とした。ただし、試験期間は 8 時 30 分～21 時 30 分に延長して対応する。結果、業務委託は取り止め、学生アルバイトと館員による体制に戻すこととし、人件費が大幅に削減された。 3. LIMEDIO 仕様のハンディターミナルを使用し、8 月初旬の 3 日間に、計画どおり実施することができた。ただし、8 月は夏期休暇が全学一斉ではなくなったため、開館したままの実施が難しくなったことから、次年度は 3 月下旬の閉館時に実施時期を変更することとした。 4. 担当教員と連携して、講義等に合わせたガイダンスを行っている。ガイダンスの内容については次年度以降も見直しが必要と思われる。 5. 昨年度から研究費図書の資料費購入が可能になったが、それ以前の資産登録分について財務担当と連携し、年次計画で除籍基準に基づく処理を進めている。 6. 利用頻度調査結果に基づく電子ジャーナルへの切り替えや購読誌の見直しがここ数年順調に行われている。 7. 大学図書館界においては大学独自のリポジトリ構築と国立情報学研究所を中心とした共用リポジトリ利用の動きがあり、本学に相応しいリポジトリについては動向を見極め、2014 年度に予算計上して構築することができるよう、継続課題とする。 8. 図書館及び情報処理室とも素案を提示し、新館建設に向けた情報提供を行った。
次年度への課題	今年度見直しを行った 2、3、4 についてはその成果を確認する意味で 2013 年度の課題とし、5 と 6 については順調に推移しているため、課題とはせず継続実施する。7 は博士論文の全文公表が開始されることから、2013 年度中に具体案を提示し、2014 年度の構築を目指す。8 は情報収集と分析を行って、継続して検討を進めるべき課題と思われる。

X. 情報処理システム

担 当： 図書情報委員会

本年度の活動目標	1. サーバースステムの入替整備：止まらないシステム&学生サービスの向上をめざして 2. 無線 LAN 環境の整備：ラウンジとマリアホール 3. 情報処理室端末の入替整備：情報処理室端末 120 台の更新 4. 情報処理室授業支援システムの整備 5. 遠隔地授業支援システム(TV 会議システム)の整備 6. 利用マニュアルの新規作成 7. 情報処理室夜間アルバイト 1 名増員による 2 名体制の確立 8. 情報処理室事務室の移動(拡張)：事務スペース及び作業スペースの確保と環境改善
活動内容の評価	1～5. 情報機能整備計画を 2010 年度に策定し、2011 年度には学内ネットワークの整備、2012 年度にはサーバースステム更新を中心に、学生により良い利用環境を提供するため、情報処理室の端末 120 台の更新、授業支援システムの導入、さらに実習先との双方向授業などを円滑に行う TV 会議システムの利用やマリアホール及びラウンジへの無線 LAN 域設定などを予定どおり実施した。現在は動作確認などを繰り返し行い、不具合が生じにくい環境とするため、業者と連携し微調整を行っている。 6. 前記の完了とともに作成を開始し、後期に利用案内を行った。さらに、次年度へ向け改訂・編集作業を行っている。 7. 後期の利用増を予測して、各室にアルバイトが配置できるよう、アルバイト学生を増員して各日 2 名体制に変更した。アルバイト学生が協力して対応できるため、順調に推移している。情報処理室の職員についても、これまで嘱託職員 1 名と派遣職員 1 名による綱渡り状態にあったが、2012 年度から専任職員 1 名、嘱託職員 1 名の 2 名体制が確立し、円滑なサービス提供が可能となった。 8. サーバ室の拡張に伴い、事務室が狭隘化したため、近隣の研究室を転用して事務室とした。これに伴い受付業務がスムーズに行われるよう、工夫改善を続けている。 今後は導入した各種システムがフルに活かされる利用環境を構築するため、あらたな目標を設定し、実現していくこととする。
次年度への課題	1. 各システムの円滑な利用を推進し、保守管理体制を確立する。 2. 2013 年度利用状況の把握やアンケート調査などを行って、利用マニュアルの改訂や説明会の開催などを計画・実施し、さらに利用環境の改善整備を図る。 3. 図書館と連携し、新館建築計画等の策定に際し情報提供ができるよう準備する。

XI. 施設・設備

担 当： 事務局総務課

本年度の活動目標	1. 校舎の環境保全および維持管理 2. 学生の学習環境、生活環境の改善 3. 施設設備の光熱水費の省エネルギー化
活動内容の評価	1. 本年度は3号館1階クラブ室屋上防水補修工事、体育館廊下窓落雪防止戸設置工事および6号館機械室給水ポンプ逆流防止弁交換工事などの校舎補修、維持のための工事を行った。また、定期的に屋上防水や外壁補修などを行っているが、既設校舎の老朽化も進んでいくことから、新校舎建設に向けて第2号基本金組入れ計画表に基づき第2号基本金引当特定預金への積み立てを行った。 2. 前年度末に各講義室にエアコンを設置したことから、夏季の学習環境は大幅に改善された。また冬季間も温水パネルヒーターが休止する20時以降についても、エアコンによる暖房運転で、学生の自習環境は改善された。 学生食堂については本年度に委託業者の切り替えを行った際に、改めて厨房設備の見直しを行い、新たな機器設備を導入した。学生の生活（食事）環境改善にも力を入れたことで前年度に比べ、食数も上昇している。 3. エアコン設置により電気代の上昇が予想されたが、震災プロジェクトチームの学生への呼び掛けや掲示物での啓蒙および体育館照明のLED化、1階廊下のCCFL電灯への切り替えなどにより、エアコンによる電気代の増加やガス単価の値上げによるガス料金の増加がありながらも、光熱水費は前年度からわずかな上昇で抑えられた。
次年度への課題	1. 校舎の環境保全、維持管理及び学習支援を図るため老朽化する施設や設備の定期的な修繕工事と修繕計画の立案 ① 体育館・1～5号館給水配管工事の改修 ② 学生ロッカーの入替、マリアホールのテーブル・椅子の入替 ③ 講義室液晶プロジェクター更新やAV操作卓の導入 2. エアコン設置や今後のガス単価の値上げに伴う更なる省エネ化 3. 中長期計画に伴う新校舎建築計画の立案 ① 事前調査、建物診断等の実施

XII. 管理運営

担 当： 事務局総務課

本年度の活動目標	1. 「教育研究評議会」、「教授会」および「研究科委員会」を定期的に開催し、学長を中心とした組織的な意思決定を図る。 2. 「委員会通則」の改正により、委員会運営の強化を図る。
活動内容の評価	1. 「教育研究評議会」、「教授会」および「研究科委員会」を定期的に開催し、活発な議論を行った。 2. 2011 年度に改正した「委員会通則」を今年度(2012 年度)より施行したことにより、大学院を含めた新たな運営組織体制となった。各委員会の活動については教授会で報告される他、教学組織と運営組織の共通理解を図ることを目的とした運営連絡会等でも報告され、学園全体として共通理解を図ることに努めている点は評価できる。 3. 助産研究科では従来の学生委員会など 5 委員会を本年度から教務委員会、入試委員会の 2 委員会に統合し一年間実施したところであるが、募集や広報の対象者が異なることなどから教務委員会、入試・広報委員会として再編成し 2013 年度から運用することとした。
次年度への課題	「教育研究評議会」、「教授会」および「研究科委員会」などを定期的に開催し、組織的な運営に努める。

XIII. 財務

担 当： 事務局総務課

本年度の活動目標	1. 各引当特定資産の計画的な繰り入れによる財政基盤の安定化 2. 受験者数、入学者数の安定的な確保による帰属収入の確保
活動内容の評価	1. 本年度も退職給与引当特定資産へ 28 百万円、減価償却引当特定資産へ 92 百万円および第 2 号基本金引当特定資産へ 110 百万円繰り入れた。これにより退職給与引当預金率は 81.5%となり、同系列の他法人平均（69.8%）と比較してもかなり繰り入れができています。また、第 2 号基本金組入計画表に基づき第 2 号基本金引当特定資産の繰り入れも順調に行うことができた。 2. 私立大学を取り巻く経営環境が厳しい中、2012 年度の受験申込者総数は 842 名と前年度 787 名から 55 名増えた。内訳は看護栄養学研究科 10 名（前年度 6 名）、助産研究科 35 名（同 28 名）、看護学科 525 名（同 531 名）、栄養学科 272 名（同 222 名）とほとんどの研究科、学科で受験生が増加した。入学者については、222 名と入学定員（225 名）を若干下回ったが、継続的に確保できているため、在籍者総数も 805 名と定員 806 名とほぼ同数となっている。このため学生生徒等納付金や前受金が安定的に確保できていることが、財務比率の数値を良好にしている。
次年度への課題	1. 継続的な受験者数、入学者数の確保（特に大学院入学者） 2. 外部資金の確保（補助金収入、事業収入等） 3. 教育研究経費の効率的な予算配分（教育研究経費比率の上昇）

XIV. 事務組織

担 当： 事 務 局 長 _____

本年度の活動目標	1. 事務局組織、人員体制のあり方について、学生支援、教育研究支援、経営支援等を行うため、効率的、機能的な組織の構築を目指す。 2. 2011年度の（財）大学基準協会の点検評価結果において、事務組織・事務業務の継続性の観点から専任職員と非専任職員の構成バランスについて検討を求められたことについて改善を目指す。 3. 事務局の課内および課間の業務分担を見直し、業務量の平準化など効率的・機能的組織を目指すために、事務局内や将来構想委員会小委員会で提案された組織体制と、各課の人員構成、業務の改善等についての検討を行う。
活動内容の評価	1. 専任職員と非専任職員の構成バランスについては、2013年度において専任職員2名を職種変更により増員することになり、改善が図られることになった。 2. 業務分担や業務量の見直しにより事務局内の不均衡を是正することや、財務体制や入試事務や広報体制についても強化する必要があることから、2013年度において組織・体制を見直すこととして検討を行った。 3. 年度途中において、事務局長、総務課長代理が退職したことにより、事務局の業務を円滑に遂行するため、教授会等の開催業務を各課長で分担し、学務課長補佐を総務課長補佐と併任するなどの措置をとり、協力体制をとった。 4. 事務職員の資質の向上のために、今年度も日本私立大学協会等が開催する各種研修会に参加して研鑽に努めるとともに、事務局全体研修としてSD研修会を9月4日、教職員修養会を11月3日に実施した。事務局全体の業務の向上のためには専任職員同様に嘱託職員の資質の向上が必要であり、今後は、内部研修の参加とともに外部研修に参加させることを検討する。 5. 教学組織との関係においては、研究科、学科、科、教学の常設委員会に、事務局長や課長等が事務局として関わることで、教学組織と密接な連携により円滑な運営を行っている。
次年度への課題	1. 2013年度において、大学運営の効率的で機能的な支援を行うための事務局体制の見直しを行う。 2. 事務局組織のレベルアップのため、専任職員の研修参加はもとより、同種の業務を行う嘱託職員についても研修機会の充実を図る。

XV. 自己点検・評価活動

担 当： 自己点検評価委員会

本年度の活動目標	1. 2011 年度の大学評価（認証評価）における課題に関して、全学的な課題の共有と改善に向けた方策の見直し及び実施 2. 大学における自己点検活動のあり方の検討（PDCA サイクルによる自己点検活動） 3. 2011 年度年報作成および 2012 年度以降の年報の内容の検討
活動内容の評価	1. 2011 年度大学評価の内容、課題について全学的に共有を図るため、教員及び職員を対象に説明会を実施した。（教員 6 月教授会、職員 9 月 SD 研修会にて実施）。これまで、全学的に自己点検活動を共有する場を設けていなかったため、現状の課題がどこにあるのか、どの部門で検討していくべきかを全学的に共通認識を持ち、自己点検活動が全学的な取り組みであることを認識する機会になったと評価する。 2. PDCA サイクルによる自己点検活動のあり方の検討を行った。2012 年度は年報の見直しから始めた。従来の年報の記載内容を見直し、その結果、以下の問題点が明らかとなった。①目標、内容がほとんど例年同じ内容で記載 ②活動内容、評価が混在する、数値化などないため評価結果があいまい ③資料の掲載にとどまり、活動結果などの分析・評価があいまい ④改善策に具体性がないため、次年度の改善につながっていないなど。以上から 2012 年度以降の年報では、年度の目標、活動、評価、2013 年度への継続もしくは改善点などを簡潔に示す記述内容とし、担当機関が、何を課題にどのように取り組み、その結果どうであったのかを意識できるものとした。年報の改訂にあたっては、教職員関係者を集めた説明会を実施した。また、自己点検評価委員会が年度末に評価するという体制をとり、大学全体での課題を明確にした取り組みを行った。以上は、自己点検評価委員会を中心とした PDCA サイクルによる自己点検活動の第 1 歩を進めることができたと評価する。 3. 従来方式の 2011 年版は年報原稿の最終提出 8 月末、発刊 11 月という状況であったが、2012 年度版は 6 月の発刊を目指し、原稿締め切りは 3 月末、3 月末には評価報告会を実施するなど年度末に評価を行うことを意識したサイクルに変更した。 2012 年 3 月に初めての試みとして、年報原稿作成後 2012 年度の活動内容及び次年度の課題に関する報告会を学長出席のもと行った（常任監事 陪席）。 出席者は、学科長、委員長らが中心であったが、意見交換や各委員会の取り組み内容の確認などが行われ全学的に各部署の取り組みを理解する上で効果的だった。今後は、教職員にも公開する、または全学的な報告会等も必要と考える。
次年度への課題	1. 改訂年報及び評価報告会が、今年度明らかになった年報内容の問題点を改善し、自己点検評価活動としての活性化に結びついているのかを検証する 2. 助産研究科の日本助産評価機構による認証評価を受審する

自己点検・評価資料

目 次

I. 学事歴	17
II. 2012年度開講科目一覧	19
III. 学生数・奨学金の採用状況	21
IV. 国家試験合格率	22
V. 就職・進学状況	23
VI. 2013年度入学試験結果	24
VII. 教員組織	25
VIII. 事務組織	26
IX. 研究等の活動	27
X. 組織図	30
XI. 会議の開催状況	31
XII. 委員会構成一覧	33
XIII. 委員会の活動報告	34
XIV. 図書館の利用状況	48
XV. 施設・設備の状況	49
XVI. 財務状況	51

I. 学事暦(助産研究科)

【前期】

	日	月	火	水	木	金	土	行事予定等
4月	1	2	3	4	5	6	7	3日(火)13:00 入学式・新入生オリエンテーション 4日(水) 新入生オリエンテーション・2年次ガイダンス・健康診断 5日(木)～6日(金) 新入生修養会
	8	9	10	11	12	13	14	
	15	16	17	18	19	20	21	
	22	23	24	25	26	27	28	24日(火)午後 始業ミサ、イースターの集い
	29	30						
5月			1	2	3	4	5	
	6	7	8	9	10	11	12	
	13	14	15	16	17	18	19	14日(月) 基礎2年: マタニティサイクル独立助産実習開始(前半グループ) 16日(水)午後 合唱コンクール
	20	21	22	23	24	25	26	
	27	28	29	30	31			
6月						1	2	
	3	4	5	6	7	8	9	18日(月)～22日(金) 基礎・教育1年: 補講期間・前期定期試験 22日(金) 基礎2年: マタニティサイクル独立助産実習終了(前半グループ)基 25日(月) 礎1年: マタニティサイクル助産ケア基礎実習Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ開始 教育1年: マタニティサイクル助産ケア基礎・統合実習開始 教育2年: 臨床助産教育実習開始
	10	11	12	13	14	15	16	
	17	18	19	20	21	22	23	
	24	25	26	27	28	29	30	
7月	1	2	3	4	5	6	7	2日(月) 基礎2年: マタニティサイクル独立助産実習開始(後半グループ)
	8	9	10	11	12	13	14	
	15	16	17	18	19	20	21	
	22	23	24	25	26	27	28	
	29	30	31					
8月				1	2	3	4	10日(金) 基礎2年: マタニティサイクル独立助産実習終了(後半グループ)
	5	6	7	8	9	10	11	24日(金) 基礎1年: マタニティサイクル助産ケア基礎実習Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ終了 教育1年: マタニティサイクル助産ケア基礎・統合実習終了
	12	13	14	15	16	17	18	
	19	20	21	22	23	24	25	教育2年: 臨床助産教育実習終了
	26	27	28	29	30	31		27日(月)～31日(金) 基礎2年: 補講期間・前期定期試験
9月							1	
	2	3	4	5	6	7	8	3日(月) 夏期休暇開始
	9	10	11	12	13	14	15	
	16	17	18	19	20	21	22	28日(金) 夏期休暇終了
	23	24	25	26	27	28	29	30日(金) 教育2年: 修了
	30							

学 内 授 業 期 間	基礎1年次	4月6日(金)～6月 15日(金) 8月27日(月)～8月31日(金)	臨 地 実 習 期 間	基礎1年次	基礎実習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ	6月25日(月)～8月24日(金)
	基礎2年次	4月 4日(水)～5月11日(金)		基礎2年次	独立助産実習(前半)	5月14日(月)～6月22日(金)
	教育1年次	4月6日(金)～6月 15日(金) 8月27日(月)～8月31日(金)		教育1年次	独立助産実習(後半)	7月 2日(月)～8月10日(金)
	教育2年次	4月 4日(水)～8月31日(金)		教育2年次	基礎・統合実習Ⅰ 臨床助産教育実習	6月25日(月)～8月24日(金) 6月25日(月)～8月24日(金)

I. 学事暦(助産研究科)

【後期】

	日	月	火	水	木	金	土	行事予定等	
10月	1	2	3	4	5	6	7	1日(月)	基礎2年: マタニティサイクル助産ケア統合実習Ⅱ開始(1グループ)
	7	8	9	10	11	12	13	12日(金)	基礎2年: マタニティサイクル助産ケア統合実習Ⅱ終了(1グループ)
	14	15	16	17	18	19	20	15日(月)	基礎2年: マタニティサイクル助産ケア統合実習Ⅱ開始(2グループ)
	21	22	23	24	25	26	27	26日(金)	基礎2年: マタニティサイクル助産ケア統合実習Ⅱ終了(2グループ)
	28	29	30	31				29日(月)	基礎2年: マタニティサイクル助産ケア統合実習Ⅱ開始(3グループ)
11月					1	2	3	9日(金)	基礎2年: マタニティサイクル助産ケア統合実習Ⅱ終了(3グループ)
	4	5	6	7	8	9	10		
	11	12	13	14	15	16	17		基礎1年: 演習、実習オリエンテーション
	18	19	20	21	22	23	24	19日(月)～22日(木)	基礎・教育1年: 補講期間・後期定期試験
	25	26	27	28	29	30		26日(月)	基礎1年: マタニティサイクル助産ケア統合実習Ⅰ開始
12月							1	8日(土)	創立記念日 教育1年: 演習、実習オリエンテーション
	2	3	4	5	6	7	8		
	9	10	11	12	13	14	15	17日(月)	教育1年: マタニティサイクル独立助産実習開始
	16	17	18	19	20	21	22	18日(火)午後	学生クリスマスの集い
	23	24	25	26	27	28	29	25日(火)	キリスト降誕祭
	30	31						31日(月)	基礎1年、基礎2年: 冬期休暇開始
1月			1	2	3	4	5		
	6	7	8	9	10	11	12	11日(金)	基礎1年、基礎2年: 冬期休暇終了
	13	14	15	16	17	18	19		
	20	21	22	23	24	25	26	25日(金)	教育1年: マタニティサイクル独立助産実習終了
	27	28	29	30	31				
2月						1	2		
	3	4	5	6	7	8	9	4日(月)	教育1年: 冬期休暇開始
	10	11	12	13	14	15	16	15日(金)	教育1年: 冬期休暇終了
	17	18	19	20	21	22	23		
3月	24	25	26	27	28				
						1	2	1日(金)	基礎1年: マタニティサイクル助産ケア統合実習Ⅰ終了
	3	4	5	6	7	8	9	5日(火)～6日(水)	修了前修養会
	10	11	12	13	14	15	16	14日(木)	修了・卒業感謝のミサ
	17	18	19	20	21	22	23	15日(金)	修了証書・学位記授与式
	24	25	26	27	28	29	30		
	31								

学 内 授 業 期 間	基礎1年次	(金) 3月4日(月)～3月8日(金)	臨 地 実 習 期 間	基礎1年次	統合実習Ⅰ	11月26日(月)～12月28日(金)
	基礎2年次	(金) 1月15日(火)～2月22日(金)		基礎2年次	統合実習Ⅱ	1月14日(月)～3月1日(金)
	教育1年次	(金) 2月18日(月)～3月8日(金)		教育1年次	独立助産実習	10月1日(月)～11月9日(金)
						12月17日(月)～1月25日(金)

Ⅱ．２０１２年度開講科目一覧

【助産基礎分野】

区 分		授 業 科 目	学年	学期	単位数		授業区分			履修方法及び 修得要件
					必修	選択	講義	演習	実習	
基 礎 科 目	概念形成	助産学概論	1	前	1		1			展 修 了 要 件 は、 選 択 科 目 3 単 位 以 上 を 含 む 56 単 位 を 修 得 す る こ と。 な お、 選 択 科 目 は、 ① か ら ④ の い ず れ か の 領 域 の 単 位 を 必 ず 修 得 し、 か つ ①、 ②、 ③ の 領 域 を 選 択 し た 場 合 は、 発
		助産哲学・倫理Ⅰ	1	後	1		1			
		助産哲学・倫理Ⅱ	2	後		1	1			
		出産の文化	1	前	1		1			
	専門基礎	女性のフィジカルイグザミネーション	1	前	1			1		
		助産薬理学Ⅰ	1	前	1		1			
		助産薬理学Ⅱ	2	前	1		1			
		妊産褥婦乳幼児の栄養	1	前	1		1			
		助産女性学	1	前	1		1			
		助産カウンセリング	1	後	1			1		
		健康教育論Ⅰ	1	前	1		1			
		健康教育論Ⅱ	2	前	1			1		
		助産研究法	1	後	1		1			
	助産機能	助産管理論Ⅰ	1	後	1		1			
		助産管理論Ⅱ	2	前	1		1			
		助産師教育論	2	前	1		1			
		助産師教育方法論	2	後		1	1			
		母子保健行政・財政論	1	後	1		1			
		母子保健活動論（疫学・統計を含む）	2	前	1		1			
実 践 専 門 科 目	マタニティ サイクル 助産ケア	マタニティサイクル助産ケアⅠ	1	通年	2		1	1		
		マタニティサイクル助産ケアⅡ	1	通年	2		1	1		
		マタニティサイクル助産ケアⅢ	1	通年	2		1	1		
		ハイリスク助産学Ⅰ	1	後	1		1			
		ハイリスク助産学Ⅱ	1	後	1		1			
		ハイリスク助産演習	2	前	1			1		
		独立助産実践概論	2	前	1		1			
		独立助産演習	2	前	1			1		
	マタニティ サイクル 助産ケア実践	マタニティサイクル助産ケア基礎実習Ⅰ	1	前	2				2	
		マタニティサイクル助産ケア基礎実習Ⅱ	1	前	2				2	
		マタニティサイクル助産ケア基礎実習Ⅲ	1	前	2				2	
		マタニティサイクル助産ケア統合実習Ⅰ	1	後	6				6	
		マタニティサイクル独立助産実習	2	前	6				6	
		マタニティサイクル助産ケア統合実習Ⅱ	2	後	2				2	
発 展 ・ 展 開 科 目	発展・展開	子育て支援論Ⅰ	1	後	1		1			
		子育て支援論Ⅱ	2	前後	①	1		1		
		子育て支援論演習	2	後		1		1		
		性教育Ⅰ	2	前	1		1			
		性教育Ⅱ	2	前後	②	1		1		
		性教育実習	2	後		1			1	
		ウィメンズヘルスⅠ	1	後	1		1			
		ウィメンズヘルスⅡ	2	前後	③	1		1		
		ウィメンズヘルス演習	2	後		1		1		
		国際助産学Ⅰ	2	前	1		1			
		国際助産学Ⅱ	2	前後	④	1		1		
		国際助産学実習	2	後		2			2	
		特別統合研究科目		特別統合課題研究	2	通年	1			1
合 計					53	11	26	15	23	

【助産教育分野】

区 分		授 業 科 目	学年	学期	単位数		授業区分			履修方法及び修了要件
					必修	選択	講義	演習	実習	
基礎科目	概念形成	助産学概論	1	前	1		1			単位付与対象科目
		助産哲学・倫理Ⅰ	1	後	1		1			
		助産哲学・倫理Ⅱ	1	後		1	1			
		出産の文化	1	前	1		1			
	専門基礎	女性のフィジカルイグザミネーション	1	前		1		1		
		助産薬理学Ⅰ	1	前	1		1			
		助産薬理学Ⅱ	2	前	1		1			
		妊産褥婦乳幼児の栄養	1	前	1		1			
		助産女性学	1	前	1		1			
		助産カウンセリング	1	後		1		1		
		健康教育論Ⅰ	1	前	1		1			
		健康教育論Ⅱ	2	前	1			1		
		助産研究法	1	後		1	1			
	助産機能	助産管理論Ⅰ	1	後		1	1			
		助産管理論Ⅱ	1	前	1		1			
		母子保健行政・財政論	1	後		1	1			
		母子保健活動論（疫学・統計を含む）	2	前		1	1			
実践専門科目	マタニティサイクル助産ケア	マタニティサイクル助産ケアⅠ	1	通年	2		1	1		単位付与対象科目
		マタニティサイクル助産ケアⅡ	1	通年	2		1	1		単位付与対象科目
		マタニティサイクル助産ケアⅢ	1	通年	2		1	1		単位付与対象科目
		ハイリスク助産学Ⅰ	1	後		1	1			単位付与対象科目
		ハイリスク助産学Ⅱ	1	後		1	1			
		独立助産実践概論	1	前	1		1			
		独立助産演習	1	前	1			1		
	マタニティサイクル助産ケア実践	マタニティサイクル助産ケア基礎実習Ⅰ	1	前	2				2	単位付与対象科目
		マタニティサイクル助産ケア基礎実習Ⅱ	1	前	2				2	単位付与対象科目
		マタニティサイクル助産ケア基礎実習Ⅲ	1	前	2				2	単位付与対象科目
		マタニティサイクル助産ケア統合実習	1	後	6				6	単位付与対象科目
		マタニティサイクル独立助産実習	1	後	6				6	
発展・展開科目	発展・展開	子育て支援論	1	後		1	1			
		性教育	1	前		1	1			
		ウィメンズヘルス	1	後		1	1			
		国際助産学	1	前		1	1			
	発展・展開	教育概論	1	後	2		2			
		教育計画(カリキュラム)の原理と展開	1	後	3 ^①		2	1		
		教授学習法の理論と展開	1	後	3		2	1		
		教育評価	1	後	3		2	1		
		教育機関の運営と評価	1	後	2		2			
		助産教育実習	2	前	2			1	1	
		臨床助産教育実習	2	前	2			1	1	
	特別統合研究科目	助産教育課題研究	2	前	2			2		
合 計					55	13	34	14	20	

Ⅲ. 学生数・奨学金の採用状況

在籍者数

(2012年5月1日現在)

注 入 定 員 数				(2012年3月1日現在)						
所属	学科・専攻	コース名等	収容定員	1年	2年	3年	4年	計	収容定員充足率	
看護栄養学部	看護学科		341	94 (8)	96 (4)	97 (2)	88 (2)	375 (16)	110.0%	
	栄養学科		350	95 (0)	89 (2)	91 (1)	93 (1)	368 (4)	105.1%	
		(うち編入生)	10	— —	— —	5 (0)	5 (1)	10 (1)	100.0%	
	小 計			691	189 (8)	185 (6)	188 (3)	181 (3)	743 (20)	107.5%
助産大学院研究科	助産専攻	助産基礎分野	60	18 —	27 —	— —	— —	45 —	75.0%	
		助産教育分野	20	3 —	3 —	— —	— —	6 —	30.0%	
	小 計			80	21 —	30 —	— —	— —	51 —	63.8%
看護栄養学大学院研究科	看護学専攻	ホスピス・緩和ケア看護学コース	8	2 (0)	2 (0)	— —	— —	4 (0)	50.0%	
		公衆衛生看護学コース	4	0 (0)	2 (0)	— —	— —	2 (0)	50.0%	
		精神看護学コース	4	0 (0)	0 (0)	— —	— —	0 (0)	0.0%	
	栄養管理学専攻	博士前期課程	6	3 (0)	1 (0)	— —	— —	4 (0)	66.7%	
		博士後期課程	6	0 (0)	0 (0)	1 (0)	— —	1 (0)	16.7%	
	小 計			28	5 (0)	5 (0)	1 (0)	— —	11 (0)	39.3%
合 計			799	215 (8)	220 (6)	189 (3)	181 (4)	805 (20)	100.8%	

社会人学生数

(2012年5月1日現在)

所属	学 科	1年	2年	3年	4年	計
看護栄養学部	看護学科	5 (1)	8 (0)	5 (0)	5 (0)	23 (1)
	栄養学科	0 (0)	0 (0)	1 (0)	0 (0)	1 (0)
	小 計	5 (1)	8 (0)	6 (0)	5 (0)	24 (1)

奨学金の種類と採用数

奨学金の種類		奨学金の金額		貸与・給付の別	採用数
天使大学貸与奨学金		月 額	30,000円	無利子貸与	3人
日本学生支援機構 奨学金	第一種	月 額	30,000円 または、自宅通学 54,000円 自宅外通学 64,000円	無利子貸与	11人
	第二種 (月額選択)	月 額	30,000円、50,000円 80,000円、100,000円 120,000円	有利子貸与 利率変動3%以内	5人
北海道看護職員養成修学資金		月 額	32,000円	道内特定施設に5年以上 勤務の場合返還免除	9人
日本助産師会奨学金					1人
合 計					29人

IV. 国家試験合格率

国家試験合格率

学 部・学 科	国家試験の名称	受験者数 (A)	合格者数 (B)	合格率 (%) B/A*100	全国合格率 (%)
天使大学大学院 助産研究科	助産師国家試験	25 人	25 人	100.0%	98.1%
看護栄養学部 看護学科	看護師国家試験	86 人	85 人	98.8%	94.1%
看護栄養学部 看護学科	保健師国家試験	86 人	85 人	98.8%	97.5%
看護栄養学部 栄養学科	管理栄養士国家試験	89 人	82 人	92.1%	38.5%

V. 就職・進学状況

〔就職希望者〕

分野		助産基礎分野	助産教育分野	計	卒業者に対する割合
就職希望の有無	希望有りの者	25	3	28	100.0%
	希望無しの者	0	0	0	0.0%
計(修了者数)		25	3	28	100.0%

〔就職決定者〕

分野	助産基礎分野	助産教育分野	計	卒業者に対する割合
決定数／決定率	25	3	28	100.0%

〔地域別・就職別決定者〕

分野		助産基礎分野	助産教育分野	計	卒業者に対する割合
地域別	道外	11	0	11	39.3%
	道内	14	3	17	60.7%
	市内(再掲)	(6)	(0)	(28)	(100.0%)
職種別	助産師	25	3	28	100.0%
	上記以外	0	0	0	0.00%

2012年度求人件数・人数（2013年3月31日現在）

〔看護職〕

職 種	件 数					人 数				
	(市内)	道内	道外	全国	件数合計	(市内)	道内	道外	全国	人数合計
看護師	50	105	312	0	417	1,142	1,883	16,717	0	18,600
保健師	11	51	58	0	109	34	106	313	0	419
助産師	12	32	159	0	191	37	98	886	0	984
計	73	188	529	0	717	1,213	2,087	17,916	0	20,003

注1 (市内)は道内の内数

注2 道内+道外+全国=合計

注3 全国は勤務先が道内・道外に限定されない場合

注4 若干名は3とカウントする

注5 保健師・助産師求人数は人数を明記してある場合以外は3とカウントする

VI. 2013年度入試結果

2013年度天使大学・大学院入学試験結果

看護栄養学部

* () は、昨年度の数字です

◆看護学科

試験種別	定員 (名)	志願者数		受験者数		合格者数		入学者数		倍率 (受/合)
指定校推薦	40	7	(5)	7	(5)	7	(5)	7	(5)	1.0
公募制推薦		54	(53)	54	(53)	33	(35)	33	(35)	1.6
社会人	37	16	(25)	16	(25)	7	(6)	6	(5)	2.3
一 般		306	(318)	302	(315)	64	(66)	43	(38)	4.7
センター利用	10	142	(130)	142	(130)	25	(25)	10	(10)	5.7
総 計	87	525	(531)	521	(528)	136	(137)	99	(93)	3.8

◆栄養学科

試験種別	定員 (名)	志願者数		受験者数		合格者数		入学者数		倍率 (受/合)
指定校推薦	45	4	(5)	4	(5)	4	(5)	4	(5)	1.0
公募制推薦		50	(51)	50	(51)	38	(40)	38	(40)	1.3
社会人	30	3	(1)	3	(1)	0	(1)	0	(0)	—
一 般		116	(101)	116	(101)	41	(42)	35	(36)	2.8
センター利用	10	94	(59)	94	(59)	18	(18)	9	(14)	5.2
総 計	85	267	(217)	267	(217)	101	(106)	86	(95)	2.6

◆栄養学科 (3年次編入)

試験種別	定員 (名)	志願者数		受験者数		合格者数		入学者数		倍率 (受/合)
	5	5	(5)	5	(5)	5	(5)	5	(5)	1.0

大学院 看護栄養学研究科

◆看護学専攻

試験種別	定員 (名)	志願者数		受験者数		合格者数		入学者数		倍率 (受/合)
前期	8	4	(1)	4	(1)	3	(1)	3	(1)	1.3
後期		2	(1)	2	(1)	1	(1)	1	(1)	2.0
総 計	8	6	(2)	6	(2)	4	(2)	4	(2)	1.5

◆栄養管理学専攻 博士前期課程

試験種別	定員 (名)	志願者数		受験者数		合格者数		入学者数		倍率 (受/合)
前期	3	2	(0)	2	(0)	2	(0)	2	(0)	1.0
後期		1	(4)	1	(4)	1	(4)	1	(3)	1.0
総 計	3	3	(4)	3	(4)	3	(4)	3	(3)	1.0

◆栄養管理学専攻 博士後期課程

試験種別	定員 (名)	志願者数		受験者数		合格者数		入学者数		倍率 (受/合)
前期	2	0	(0)	0	(0)	0	(0)	0	(0)	—
後期		1	(0)	1	(0)	1	(0)	1	(0)	1.0
総 計	2	1	(0)	1	(0)	1	(0)	1	(0)	1.0

大学院 助産研究科

試験種別		定員 (名)	志願者数		受験者数		合格者数		入学者数		倍率 (受/合)
基礎分野	推薦	10	7	(8)	7	(8)	6	(7)	6	(7)	1.2
	前期一般	15	14	(13)	14	(13)	12	(11)	7	(9)	1.2
	前期社会人		7	(2)	7	(2)	6	(2)	4	(2)	1.2
	後期一般	5	2	(2)	2	(2)	2	(1)	2	(0)	1.0
	後期社会人		1	(0)	1	(0)	1	(0)	1	(0)	1.0
教 育 分 野	前期	10	4	(3)	4	(3)	4	(3)	4	(3)	1.0
	後期		0	(0)	0	(0)	0	(0)	0	(0)	—
総 計		40	35	(28)	35	(28)	31	(24)	24	(21)	1.1

VII. 教員組織

教員組織一覽

(2012年5月1日現在)

所 属		教授	准教授	講師	助教	助手	計
大学 院	助産研究科	8人	5人	0人	2人	0人	15人
	兼任教員(非常勤講師)	—	—	—	—	—	28人
看護 栄養 学部	看護学科	8人	7人	7人	6人	1人	29人
	栄養学科	7人	6人	5人	2人	5人	25人
	教養教育科	2人	4人	1人	0人	0人	7人
	計	17人	17人	13人	8人	6人	61人
	兼任教員(非常勤講師)	—	—	—	—	—	109人
合計		25人	22人	13人	10人	6人	213人

専任教員年齢構成

(2012年5月1日現在)

(2012年6月1日現在)													
所属	職位	71歳 以上	66歳～ 70歳	61歳～ 65歳	56歳～ 60歳	51歳～ 55歳	46歳～ 50歳	41歳～ 45歳	36歳～ 40歳	31歳～ 35歳	26歳～ 30歳	計	
助産研究科	教 授	1	2	4	1	0	0	0	0	0	0	8	
		12.5%	25.0%	50.0%	12.5%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100%	
	准教授	0	0	0	2	3	0	0	0	0	0	5	
		0.0%	0.0%	0.0%	40.0%	60.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100%	
	講師	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
		0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0%	
	助教	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	2	
		0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%	0.0%	100%	
	計	1	2	4	3	3	0	0	0	2	0	15	
		6.7%	13.3%	26.7%	20.0%	20.0%	0.0%	0.0%	0.0%	13.3%	0.0%	100%	
助手	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		
	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0%		
小計		1	2	4	3	3	0	0	0	2	0	15	
		6.7%	13.3%	26.7%	20.0%	20.0%	0.0%	0.0%	0.0%	13.3%	0.0%	100%	
看護栄養学部・看護栄養学研究科	教 授	1	4	7	3	2	0	0	0	0	0	17	
		5.9%	23.5%	41.2%	17.6%	11.8%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100%	
	准教授	0	0	2	4	1	7	3	0	0	0	17	
		0.0%	0.0%	11.8%	23.5%	5.9%	41.2%	17.6%	0.0%	0.0%	0.0%	100%	
	講師	0	0	1	1	1	4	4	2	0	0	13	
		0.0%	0.0%	7.7%	7.7%	7.7%	30.8%	30.8%	15.4%	0.0%	0.0%	100%	
	助教	0	0	0	0	0	0	2	3	3	0	8	
		0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	25.0%	37.5%	37.5%	0.0%	100%	
	計	1	4	10	8	4	11	9	5	3	0	55	
		1.8%	7.3%	18.2%	14.5%	7.3%	20.0%	16.4%	9.1%	5.5%	0.0%	100%	
	助手	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	4	6
		0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	16.7%	16.7%	66.7%	100%
小計		1	4	10	8	4	11	9	6	4	4	61	
		1.6%	6.6%	16.4%	13.1%	6.6%	18.0%	14.8%	9.8%	6.6%	6.6%	100%	
合計		2	6	14	11	7	11	9	6	6	4	76	
		2.6%	7.9%	18.4%	14.5%	9.2%	14.5%	11.8%	7.9%	7.9%	5.3%	100%	

※定年：65歳

教員の任免・昇任者一覧

(2012年3月31日現在)

学科・科	採用者					昇任者		退職者				
	教授	准教授	講師	助教	助手	准教授から教授	助教から講師	教授	准教授	講師	助教	助手
助産研究科	1人	2人	0人	0人	1人	0人	0人	1人	0人	0人	2人	1人
看護学科	0人	0人	1人	1人	2人	0人	0人	2人	2人	2人	3人	0人
栄養学科	0人	0人	1人	0人	0人	0人	1人	3人	0人	1人	0人	0人
教養教育科	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人
計	1人	2人	2人	1人	3人	0人	1人	6人	2人	3人	5人	1人

VIII. 事務組織

(2012年5月1日現在)

区分	部門	専任職員		常勤嘱託職員	臨時職員	派遣職員	その他	計
			うち管理職					
法人業務系	法人事務局長	1	1	0	0	0	0	1
		0	0	0	0	0	0	0
		0	0	0	0	0	0	0
	計	1	1	0	0	0	0	1
大学業務系	事務局長	1	1	0	0	0	0	1
	総務課	6	1	7	8	0	1	22
	学務課	6	1	2	5	0	0	13
	図書情報課	4	1	2	0	0	0	6
								0
	計	17	4	11	13	0	1	42
合 計		18	5	11	13	0	1	43

IX. 研究等の活動

独立行政法人日本学術振興会 科学研究費助成事業（代表者）の採択状況

	代表者名	研究課題名	種別
1	看護学科教授 荻津 智子	身近な人と死別した子どもへのグリーフケアとその評価	基盤C 継続採択
2	看護学科准教授 長谷川 真澄	急性期病院における高齢者せん妄ケアシステムの構築	基盤C 継続採択
3	看護学科准教授 草薙 美穂	若年の母親への育児支援－母子相互作用促進のための縦断的介入研究	基盤C 継続採択
4	看護学科准教授 針金 佳代子	3歳児と母親が健康な食生活を形成していくための家族支援プログラムの開発	基盤C 継続採択
5	看護学科講師 島 明子	中高年女性の「健康統御力」の形成過程とソーシャルキャピタルの影響に関する研究	基盤C 継続採択
6	看護学科講師 鳥谷 めぐみ	軽症脳卒中患者の再発予防に向けた教育支援プログラムの開発	挑戦的萌芽研究 新規採択
7	栄養学科教授 斉藤 昌之	ヒト褐色脂肪：寒冷刺激による活性化とエネルギー消費との関係	基盤C 継続採択
8	栄養学科准教授 佐藤 香苗	透析患者のQOL向上を実現するアクティブライフスタイル教育プログラムの開発と運用	基盤C 継続採択
9	栄養学科准教授 鈴木 純子	CD36欠損者の高糖質・低脂質食による代謝変化に関する研究	基盤C 新規採択
10	教養教育科准教授 堀井 泰明	徳としてのケアリングを基盤とする看護倫理学の構築	基盤C 新規採択

特別研究費の助成状況

	氏名	研究課題名
1	助産研究科助教 宮本 涼子	拓殖産婆の活動－北海道の地域特性・社会的背景との関連
2	看護学科教授 須藤 桃代	道東別海地区の地域母子保健を支えた助産師の活動
3	栄養学科教授 荒川 義人	北海道産ハスカップ、マタタビ、サルナシおよびアロニアの果実に含まれるシステインプロテアーゼの構造および機能解析に関する研究
4	栄養学科教授 大久保 岩男	「天使健康栄養クリニック」の開設継続によるメタボリックシンドロームの臨床栄養学的研究並びに健康行動変容研究を通じた大学院生と学部学生と実践的教育
5	栄養学科教授 斉藤 昌之	生活習慣病の予防・改善のための指導力を養う卒後教育プログラムの構築とその評価－eラーニングを活用した卒後教育の可能性
6	栄養学科准教授 金澤 康子	ハマナス茶の創製と食後血糖値上昇抑制効果の検討
7	栄養学科助教 木田 春代	幼児期における野菜栽培が幼児の野菜嗜好ならびに母親が行う食教育に及ぼす影響
8	栄養学科助教 長谷川 めぐみ	リステリア菌の疫学的研究－特に、肉牛由来リステリア菌の分子疫学的研究
9	教養教育科准教授 川口 雄一	遠隔利用ストーリーング教材配信基盤の構築

受託研究等

	代表者名	研究課題名	種別
1	栄養学科教授 荒川 義人	音更町第1次食育・地産地消促進計画の監修及び編集に係る委託業務	受託事業
2	栄養学科教授 荒川 義人	北海道食品の輸出に向けた味覚の国際比較調査及び国際マーケティング調査	受託事業
3	栄養学科教授 荒川 義人	北海道産昆布のペーストを原料とした試作製品の成分評価	受託事業
4	栄養学科教授 大久保 岩男	看護栄養学部栄養学科の教育・研究発展に対する助成	奨学寄付
5	栄養学科教授 大久保 岩男	鰹だし汁のヒト介入試験による機能性評価	受託事業
6	栄養学科教授 斉藤 昌之	栄養代謝と肥満・メタボリックシンドロームに関する研究に対する助成	奨学寄付
7	栄養学科教授 斉藤 昌之	ヒト褐色脂肪に対する辛味刺激の効果に関する研究に対する助成	奨学寄付
8	栄養学科教授 斉藤 昌之	ヒト褐色脂肪活性化の新しい刺激方法の探索に関する研究	受託事業
9	栄養学科教授 斉藤 昌之	マニゲット抽出物の長期摂取がヒト褐色脂肪活性に及ぼす影響について(2)	受託事業
10	栄養学科教授 斉藤 昌之	健康飲料の褐色脂肪組織に及ぼす影響の検討	受託事業
11	栄養学科教授 高島 郁夫	アンチエイジング機能を付加した新規ヨーグルトを創出するための牛初乳からの乳酸菌の探索と製品開発	受託事業
12	栄養学科教授 山口 敦子	平成24年度すいかテクスチャーの機器分析による評価法の開発に係る食味官能検査業務	受託事業
13	栄養学科准教授 佐藤 香苗	平成24年度幼児の食生活環境評価方法の開発に向けた調査委託研究	受託事業

FD・SDの実施状況

分類	日時	テーマ	内容
FD 研修会	2012年8月24日(金)	学習意欲を高める授業づくりーシラバスの効果的な作成法	名古屋大学高等教育研究センターの近田政博氏を講師に迎え、シラバスの作成法について研修を学んだ。
	2013年3月6日(水)	シラバス(授業計画書)を実際につくってみよう	北海道大学高等教育推進機構の細川敏幸氏を講師に迎え開催した。グループワークを展開し、実際にシラバスを作成した。
SD 研修会	2012年9月4日(火)	・2011年度監査報告、大学基準協会の評価結果について ・事務改善等について	認証評価について評価結果や課題を共有した。また、事務の改善を目的とした意見交換会を実施した。

公開講座の実施状況

日時	テーマ	内容
2012年8月23日（木） ～ 2012年9月20日（木）	いのちみつめて ー毎日を楽しむ健康に生きる知恵ー	毎日を楽しむ健康に暮らすために、食事や運動、笑い、漢方薬、頭の体操等について解説した講演会を実施。北海道薬科大学との連携である。

その他の活動

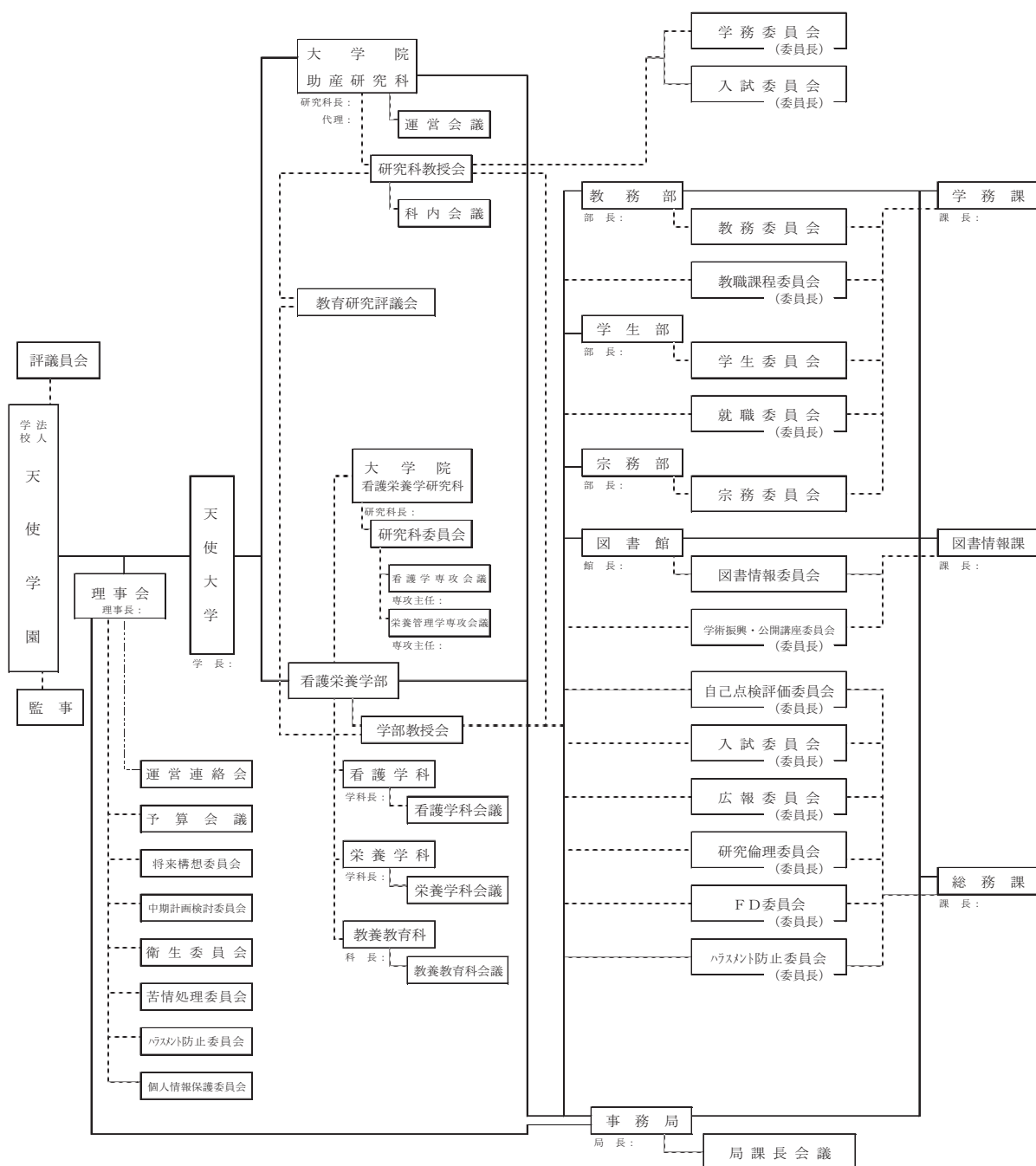
分類	活動内容
東日本大震災復興支援プロジェクト	1. ボランティア活動支援 被災地でのボランティア活動へ延べ25名の学生が参加。 2. ボランティア活動報告会の実施 2012年6月20日、2013年1月15日の2回、被災地でボランティア活動に従事した学生の活動報告会を実施 3. アレンジレシピ集の作成 「アレンジレシピ集～1つの料理がこんなに変わる」を発行。みやぎ心のケアセンターや仙台教区へ送付した。 4. 天使祭へ出展 2012年6月16日の天使祭でパネル展示、被災地の産物販売等を実施した。
コープさっぽろとの連携	産学連携プロジェクトとして料理レシピの共同開発、食品表示検定試験等を協力して実施。
レシピブックの発行	看護学科・栄養学科の学生によるレシピ「天使大学のレシピbook Vol.1～学生から家族に贈る健康レシピ33」を発行。

X. 組織図

学校法人天使学園

天使大学 大学院・看護栄養学部

管理運営組織図（2012年4月1日）



XI. 会議の開催状況

助産研究科教授会

回	開催年月日	審議・報告事項
1	2012年4月18日（水）	[審議事項] 1. 2012年度授業科目の開講時期の一部変更について 2. 天使大学大学院校務分掌規程の一部改正について 3. 専任教員（助手）の採用に係る募集大綱について [報告事項] 1. 2012年度イースターのミサ及び御ミサの予定について 2. 2012年度合唱コンクール実施について 3. 2012年度学校医・精神神経科医について 4. 2012年度学生相談室開室時間・相談員の変更について 5. 2012年度特任教員の採用について 6. 2012年度大学院助産研究科教授会構成員及び教授会の成立要件について 7. 2012年度学園・大学事業計画及び当初予算について 8. 各種規程等の一部改正について 9. その他
2	2012年5月16日（水）	[審議事項] 1. 2012年度非常勤講師の委嘱（新規採用）について 2. 2013年度助産研究科学生募集要項について [報告事項] 1. 教員研究室以外の部屋等の使用変更について 2. 天使大学キャンパス・ハラスメントの防止と解決に関する規程の一部改正について 3. 助手の採用予定について
3	2012年7月18日（水）	[報告事項] 1. 天使大学奨学金規程について 2. 2012年度学校法人天使学園第1次補正予算について 3. 2012年度特別研究費の交付採択について 4. （財）大学基準協会の大学評価（認証評価）結果における課題の検討部署について 5. 支援プロジェクト通信第10号について 6. その他
4	2012年8月22日（水）	[審議事項] 1. 2012年度非常勤講師の委嘱内容の変更について [報告事項] 1. 2012年度 JICA「英語圏アフリカ地域母子保健人材育成コース」研修生の受け入れについて 2. 天使大学教育研究評議会規程について
5	2012年9月19日（水）	[審議事項] 1. 2012年度助産教育分野の修了判定について 2. 天使大学大学院助産研究科専任教員の採用及び昇任の選考に関する規程の一部改正について 3. 天使大学大学院助産研究科教員選考委員会規程の一部改正について [報告事項] 1. 今後の行事予定について 2. 2012年度教職員修養会の実施について 3. 2012年度講演会の開催について 4. 教員の昇任手続きの開始について 5. 支援プロジェクト通信第11号（2012.8.31）について
6	2012年10月24日（水）	[審議事項] 1. 2013年度助産基礎分野一般入学及び社会人入学前期試験並びに助産教育分野前期入学試験の合否判定について 2. 2013年度助産研究科年次教育計画（案）について [報告事項] 1. 2012年度公開講座の実施について

回	開催年月日	審議・報告事項
7	2012年11月21日(水)	[審議事項] 1. 2012年度非常勤講師の委嘱について 2. 2012年度助産教育分野における入学後の単位付与について 3. 2013年度学事暦(案)について [報告事項] 1. 今後の宗務行事予定について 2. 2012年度学校法人天使学園第2次補正予算について 3. 天使大学ハラスメント防止および問題解決のためのガイドラインについて 4. 東日本大震災復興支援プロジェクト企画による学生ボランティア報告会の実施について 5. 支援プロジェクト通信第12号について
8	2012年12月19日(水)	[審議事項] 1. 2013年度非常勤講師の委嘱について 2. 専任教員の採用に係る募集大綱について [報告事項] 1. 講演会の開催について
9	2013年1月30日(水)	[審議事項] 1. 2013年度助産基礎分野一般入学試験・社会人入学試験後期試験の合否判定について [報告事項] 1. 札幌中税務署による源泉所得税税務調査
10	2013年2月20日(水)	[審議事項] 1. 天使大学大学院学則の一部改正(案)について 2. 天使大学大学院研究科教授会規程の一部改正(案)について 3. 2012年度非常勤講師の委嘱内容の変更について 4. 2013年度非常勤講師の委嘱について 5. 2013年度非常勤講師の委嘱(変更)について 6. 2013年度授業科目の開講時期の一部変更について 7. 2013年度専任教員の新規担当科目について 8. 復学願の許可について 9. 復学願の許可について 10. 休学願の許可について 11. 退学願の許可について [報告事項] 1. 今後の行事予定について
11	2013年3月19日(水)	[審議事項] 1. 休学願の許可について [報告事項] 1. 2013年度開講科目における担当教員について
臨時1	2012年9月26日(水)	[審議事項] 1. 2013年度助産基礎分野推薦入学試験の合否判定について 2. 休学願の許可について
臨時2	2013年3月5日(火)	[審議事項] 1. 2012年度 助産基礎分野の修了判定について 2. 専任教員の募集大綱について [報告事項] 1. 専任教員の退職について

XII. 委員会構成一覧

2012年度 校務分掌 委員会構成一覧

教育研究評議会		学 長、看護栄養学研究科長、助産研究科長、看護学科長、栄養学科長、教養教育科長、図書館長、宗務部長、教務部長、学生部長、事務局長 助産研究科教務委員長				
区分	委員会名	委員長	委 員	人数	委員任期	担当事務局
常	教 務 委 員 会	菅 原（邦）	<u>教務部長</u> ：菅原(邦) <u>看護</u> 学科長、 <u>栄養</u> 学科長、 <u>教養</u> 教育科長、 <u>教職</u> 課程委員長 <u>看護</u> ：大野 <u>栄養</u> ：山口 <u>教養</u> ：日時	8	2年	学 務 課
	学 生 委 員 会	山 部	<u>学生部長</u> ：山部 <u>看護</u> ：柴田・木津 <u>栄養</u> ：金澤・岩渕 <u>教養</u> ：川口	6	2年	学 務 課
	宗 務 委 員 会	沢	<u>宗務部長</u> ： 沢 <u>看護</u> ：スレイマン <u>栄養</u> ：岡部・松下 <u>教養</u> ：小原 <u>助産</u> ：今崎 <u>事務局</u> ：白石、菊池	8	2年	学 務 課
設	図書情報委員会	大 久 保	<u>図書館長</u> ：大久保 <u>看護</u> ：鹿内・久賀 <u>栄養</u> ：勝野・長谷川(め) <u>教養</u> ：日時 <u>助産</u> ：宮本 <u>事務局</u> ：平野	8	2年	図書情報課
	入 試 委 員 会	荒 川	看護学科長、栄養学科長、教養教育科長 <u>看護</u> ：長谷川(真) <u>栄養</u> ：西 <u>教養</u> ：田島 <u>事務局</u> ：照井	6	2年	総 務 課
	広 報 委 員 会	鈴木(純)	<u>看護</u> ：吉田(礼)・鳥谷 <u>栄養</u> ：勝野・吉田(真) <u>教養</u> ：堀井 <u>助産</u> ：津田 <u>事務局</u> ：照井	8	2年	総 務 課
委	自己点検評価 委 員 会	荻 津	看護栄養学研究科長、看護学科長、栄養学科長、教養教育科長、事務局長 <u>看護</u> ：小島 <u>栄養</u> ：西 <u>教養</u> ：田島 <u>助産</u> ：園生	9	2年	総 務 課
	F D 委 員 会	田 島	<u>看護</u> ：北村 <u>栄養</u> ：佐藤 <u>教養</u> ：小原 <u>助産</u> ：本宿	5	2年	総 務 課
	学術振興委員会	高 島	<u>看護</u> ：島 <u>栄養</u> ：森谷 <u>教養</u> ：小原 <u>助産</u> ：平山	5	2年	図書情報課
員	地域連携等委員会	山 口	<u>看護</u> ：針金 <u>栄養</u> ：岡部 <u>教養</u> ：川口 <u>助産</u> ：津田	5	2年	学 務 課
	就 職 委 員 会	瀧	<u>看護</u> ：瀧・草薨 <u>栄養</u> ：菅原(千)・百々瀬 <u>教養</u> ：相内 <u>助産</u> ：今崎	6	2年	学 務 課
	教職課程委員会	伊 藤	<u>教職</u> 科目担当：山部・百々瀬・菅原(千)・相内	5	2年	学 務 課
会	研究倫理委員会	堀 井	助産研究科長、看護栄養学研究科長 <u>看護</u> ：荻津 <u>栄養</u> ：斉藤 <u>教養</u> ：堀井 <u>学長指名</u> ：鈴木(純)	6	2年	総 務 課
	キャンパス・ハラスメント 対 策 委 員 会	須 藤	学生部長、 <u>看護</u> ：須藤 <u>栄養</u> ：山部 <u>教養</u> ：伊藤 <u>助産</u> ：平山 事務局長 <u>職員</u> ：平野	6	2年	総 務 課
	特設	学生懲戒委員会	その都度	学生部長、 <u>看護</u> ：鹿内 <u>栄養</u> ：小林 <u>教養</u> ：小原 <u>助産</u> ：	5	2年
	個人情報保護委員会	その都度	助産研究科長、看護栄養学研究科長、看護学科長、栄養学科長、教養教育科長、教務部長、 事務局長	7	2年	総 務 課
看護：学生支援教員		1年： ◎大野・吉田(礼)・荻津・木津・久賀・島・北村・臺野 2年： ◎久川・菅原(邦)・針金・鹿内・小日向・前田(尚)・武藤 3年： ◎鳥谷・瀧・須藤・柴田・小島 4年： ◎草薨・長谷川(真)・原田・小澤				
栄養：学生支援教員		1年： ◎山口・金澤・吉田(真)・百々瀬・岩渕・高桑 2年： ◎勝野・高島・鈴木(純)・岡部・木田・古川 3年： ◎佐藤・山部・長谷川(め)・松下・和田 4年： ◎西・大久保・小林・菅原(千)・白幡				

◎ 大学院看護栄養学研究科の科長・専攻主任

研究科長：大久保 岩男	看護学専攻主任：吉田 礼維子	栄養管理学専攻主任：佐藤 香苗
-------------	----------------	-----------------

◎ 大学院助産研究科の科長・委員会等

研究科長：園生陽子			
区分	委員会等名	委員長等	委 員
常設 機関	運 営 会 議	研究科長	研究科長、教授職
	研究科会議	研究科長	教授会構成員

区分	委員会等名	委員長	委 員
常設 機関	教務委員会	平 山	(教務)園生、平山、津田 (実習)本宿、宮本 (学生)今崎、本宿
	入試委員会	津 田	本宿

◎ 理事会設置の委員会

区分	委員会名	委員長	委 員	人数	任期	担当事務局
常 設 委 員 会	運 営 連 絡 会	理 事 長	学長、副理事長(2名)、常務理事(総務担当理事)、財務担当理事、看護栄養学研究科長、助産研究科長、学内評議員：菅原(邦)、荒川、沢、園生、久保、法人事務局長	12	1年	総 務 課
	将来構想委員会	理 事 長	学長、総務担当理事、財務担当理事、宗務部長、図書館長、研究科長、看護学科長、栄養学科長、教養教育科長、事務局長、教職員で理事・評議員：菅原(邦)、荒川、沢、園生、久保、法人事務局長	11		
	衛 生 委 員 会	学 長	産業医：樟本(天使病院)、看護：久川 栄養：勝野 教養：川口 事務局：豊島 (保健師)加藤	7		
	苦情処理 委 員 会	委 員 互 選	理事長指名：教員＝別途決定 職員：別途決定 教授会選考：別途決定 職員会議選考：別途決定			
		代理委員	その都度互選			
	懲 戒 委 員 会	理事長指名	理事長が任命する5名	5		
	ハラスメント防止委員会	理 事 長	(理事)菊地、曾我、山本、菅原、 (教員)前田(明)、堀井 (職員)：白石	7		
会	個人情報保護委員会	互 選	理事長、学長、常務理事、理事(理事会選出)：菅原、事務局長	5		

XIII. 委員会の活動報告

2012年度 教務委員会活動報告

委員会組織	委員長：園生陽子 委員：平山恵美子、本宿美砂子、今崎裕子、津田万寿美、宮本涼子
委員会開催数	12回
審議・報告事項	
[主な審議事項] ・授業科目の開講時期の一部変更について ・2012年度実習指導教員の委嘱について ・2012年度授業評価アンケート実施について ・2012年度教育分野単位付与について ・2012年度アッセンブリーアワーについて ・講義科目のプレゼン・レポート等のスケジュール調整について ・前期・後期定期試験日程および成績評価提出スケジュールについて ・教育分野の臨床助産教育実習施設について ・基礎分野の（基礎・統合Ⅰ・統合Ⅱ）実習施設担当教員について ・臨床指導者会議について ・教育分野2年生の修了について ・学籍異動について ・JICA 北海道からの研修依頼について ・2013年度教育計画（案）について ・2013年度学事暦（案）について ・2013年度の事業計画および予算（案）について ・2013年度科目責任者および担当教員について ・最終試験について ・修了判定について ・2013年度新入生・新学期オリエンテーションについて [主な報告事項] ・独立助産実習の院生配置について ・発展展開科目の希望結果と調整について ・奨学金選考結果について ・実習前ミサの開催について ・院生の退校時間について ・基礎分野の実習（基礎・統合Ⅰ・統合Ⅱ）評価について ・国際助産学実習について ・性教育実習について ・2013年度授業概要について ・2013年度各実習施設について ・助産師国家試験受験について	

2012年度 入試委員会活動報告

委員会組織	委員長：津田万寿美 委員：園生陽子、本宿美砂子
委員会開催数	<u>5</u> 回
審議・報告事項	
[主な審議事項] ・2013 年度助産研究科学生募集要項について ・2013 年度助産研究科入学試験・入試問題について ・助産研究科合否判定について ・入学試験時の入校許可申請書について ・2013 年度学生募集要項について ・本学看護学科の本研究科への推薦基準について ・2013 年度助産研究科広報活動計画について ・2013 年度助産研究科パンフレットについて [主な報告事項] ・ ・ ・	

2012年度 宗務委員会活動報告

委員会組織	委員長：沢禮子 委員：ケン スレイマン、岡部哲子、松下真美、小原琢、今崎裕子 白石澄枝、菊池史恵
委員会開催数	10回
審議・報告事項	
【主な審議事項】 ・2012 年度イースターについて ・2012 年度行事担当者役割 ・2012 年度教職員修養会について ・2012 年度予算確認 ・2012 年度イースターの集いの反省 ・2012 年度行事担当者役割 ・後期ミサ日程について ・毎週のミサにクラス毎の意向を入れることについて ・聖書購読クラスについて ・前期修了卒業感謝ミサについて ・死者追悼ミサについて ・2013 年度予算編成方針 ・クリスマスのミサについて ・アッセンブリー・アワーの実施計画案について ・クリスマスの集いの反省について ・修了・卒業感謝ミサについて ・教職員退職感謝ミサについて 【主な報告事項】 ・カトリックセンター会議報告 ・灰の儀式について ・2013 年度予算について ・アッセンブリ・アワー年間予定表について	

2012年度 図書情報委員会活動報告

委員会組織	委員長：大久保岩男 委員：久賀久美子、鹿内あずさ、勝野由美子、長谷川めぐみ、目時光紀、宮本涼子、平野敦子
委員会開催数	10回
審議・報告事項	
[主な審議事項] ・情報機能整備計画(サーバシステムの更新、授業支援システムの導入、TV会議システム Live On の利用、情報処理室 PC120 台の更新、学生用無線 LAN 域設定)の実施について ・図書館システム LIMEDIO の追加サーバ(Linux 対応)の導入について ・後援会助成図書の選定について ・図書の除籍・譲渡・廃棄について ・図書館開閉館予定表について ・学生委員会からの緊急連絡網整備に関する支援について ・図書館平日の開館時間延長幅見直し及び開館時間の短縮について ・村田文庫の取り扱いについて ・新規購入雑誌及び加除式資料の選定並びに雑誌の購読打ち切りについて ・雑誌の継続購読及び電子ジャーナルへの切り替えについて ・受贈図書の選定について ・「ブリタニカ・オンライン・ジャパン」及び「メディカルオンライン」の無料トライアルと購入選定について ・道新縮刷版の冊子体から DVD 版への変更、Journal Citation Reports 及び Web of Science の購入について ・2013 年度活動計画及び予算、図書資料費予算配分案について ・2013 年度から提供の図書館新規サービスについて(図書館内での持込パソコンの利用、天使祭一般開放など) ・無断持ち出し図書への対応について ・情報処理室利用に関するアンケート調査の実施について(2013 年度) ・2012 年度年報原稿(案)について：図書館・情報処理システム・図書情報委員会活動報告など [主な報告事項] ・図書資料費執行状況について ・情報機能整備に関する工事、年度末の図書館システム追加サーバ導入及び図書移動作業等の案内について ・情報処理室開閉室予定表について ・情報処理室導入授業支援システムの操作説明会について ・情報処理プリンタ室の使用方法について ・図書館関係施設(ロッカー等)での紛失・盗難への対応について	

2012年度 広報委員会活動報告

委員会組織	委員長：鈴木純子 委員：吉田礼維子、鳥谷めぐみ、勝野由美子、吉田真弓、堀井泰明、津田万寿美、照井省吾（～2013年2月）、佐保末男（2013年3月～）
委員会開催数	8回
審議・報告事項	
[主な審議事項] ・2012年度広報委員会活動方針（学部・看護栄養学研究科・助産研究科）について ・2012年度学生募集（進学相談会、校内ガイダンス、高校訪問等）について ・2012年度広報活動のための学内勉強会について ・2012年度出張講義・校内ガイダンスについて ・2012年度オープンキャンパスについて ・大学紹介DVDについて ・Webサイトのリニューアルについて ・学報「天使」について ・2014年度大学案内パンフレットについて ・2013年度助産研究科パンフレットについて ・志願促進DMについて ・クリスマスカードについて ・オープンキャンパスちらし・ポスターについて ・2012年度 広報委員会 各担当の評価報告について ・2013年度 広報委員会活動計画書（学部・看護栄養学研究科・助産研究科）について ・2013年度 広報委員会予算（学部・看護栄養学研究科・助産研究科）について ・2013年度 オープンキャンパス日程について ・助産研究科・看護栄養学研究科 合同ちらしについて ・新入生アンケートについて ・2012年度 年報（広報委員会関係部分）について ・助産 認証評価報告書（入学者選抜）について [主な報告事項] ・新入生アンケートについて ・在学生の肖像権について ・高校訪問の手引きについて ・助産研究科 大学訪問について ・助産研究科 広告出稿について 以上	

2012年度 自己点検評価委員会活動報告

委員会組織	委員長：荃津智子 委員：園生陽子、大久保岩男、前田明子、荒川義人、田島忠篤、小島悦子、西 隆司、佐保末男
委員会開催数	<u>11</u> 回
審議・報告事項	
[主な審議事項] ・2012 年度活動方針・活動内容について ・2011 年度年報の作成について ・自己点検評価の今後のあり方について ・大学評価（認証評価）結果における課題への取り組みについて ・2011 年度大学評価説明会について ・2012 年度年報の作成について ・2012 年度年報に係る説明会の開催について ・2012 年度年報に係る報告会の開催について ・2012 年度の点検評価および今後の課題について ・2013 年度活動計画および予算について [主な報告事項] ・大学評価（認証評価）結果についての職員への報告について ・2011 年度年報の進捗状況について ・助産研究科の 2011 年度年報作成について ・助産研究科の認証評価の進捗状況について 以上	

2012年度 FD委員会活動報告

委員会組織	委員長：田島忠篤 委員：北村育子、佐藤香苗、小原 琢、本宿美砂子
委員会開催数	<u>12</u> 回
審議・報告事項	
[主な審議事項] ・2012 年度 FD 委員会の活動方針と活動内容について ・FD 研修会の開催について ・授業アンケートの取扱いについて ・授業評価アンケートに基づく個人評価結果の対応について ・2011 年度 FD・SD 研修会テーマ「ポートフォリオ」の追跡調査について ・教務委員会からの要望事項について ・2013 年度活動計画及び予算について ・2012 年度の点検評価および今後の課題について [主な報告事項] ・2012 年度授業評価アンケート結果の活用について ・授業アンケート結果が著しく芳しくない教員の対応について ・2011 年度年報の作成について ・2011 年度授業評価アンケート結果の集計について 以上	

2012年度 学術振興委員会活動報告

委員会組織	委員長：高島郁夫 委員：森谷 絜、 平山恵美子、 小原 琢、 島 明子
委員会開催数	<u>10</u> 回
審議・報告事項	
[主な審議事項] ・天使大学紀要第13巻第1号及び第2号の原稿募集、査読、掲載採否について ・アンケート調査結果等に基づく紀要の学内用冊子体作製について ・新任教員、紀要執筆者並びに特別研究費取得者による研究報告会の定例(年2回)開催について ・若手研究者の育成、特に助手の待遇改善等について(継続) ・外部研究資金獲得のための講演会の開催について ・2013年度活動計画及び予算について ・後期研究報告会のアンケート結果について(反省) ・次年度の追加課題：機関リポジトリ掲載の研究情報について [主な報告事項] ・天使大学紀要第12巻の発刊及びCiNii掲載(電子化・公開)について ・天使大学紀要第13巻第1号及び第2号の原稿募集について ・天使大学紀要第13巻第1号及び第2号への投稿申込状況、査読、CiNii掲載(電子化・公開)について ・2013年度天使大学紀要第14巻第1号の原稿募集について ・日本私立学校振興・共済事業団による第38回学術研究振興資金への応募について ・投稿規程等の改正について ・リサーチ・アドミニストレーター入門セミナーの出張報告 ・研究報告会等の案内及びアンケートについて 以上	

2012年度 地域連携等委員会活動報告

委員会組織	委員長：山口敦子 委員：針金佳代子、岡部哲子、川口雄一、津田万寿美
委員会開催数	11回
審議・報告事項	
[主な審議事項] ・2012年度地域連携等委員会活動計画について ・2012年度地域連携等委員会役割分担について ・第13回（2012年度）天使大学・北海道薬科大学連携公開講座（運営）について ・2013年度天使大学・北海道薬科大学連携公開講座（企画）について ・2013年度助産研究科公開講座の実施方針等について ・2013年度予算（案）について ・2012年度自己点検評価について ・東区役所との連携事業関係について ・平成25年度道民カレッジ「ほっかいどう学」大学放送講座の参加について ・その他 [主な報告事項] ・2012年度予算について ・第13回（2012年度）天使大学・北海道薬科大学連携公開講座進捗状況について ・北海道薬科大学との会議（公開講座）について ・北海道薬科大学との連携：夕張市地域医療関係の学生ボランティア参加者の把握について ・北海道薬科大学への非常勤講師派遣の把握について ・助産研究科公開講座進捗状況について ・東区役所との連携事業関係について ・本学と東区役所との連携事業活動報告書（7事業）について ・2013年度予算ヒアリング結果について ・平成25年度道民カレッジ連携講座前期分申込、名義後援願について ・その他	

2012年度 就職委員会活動報告

委員会組織	委員長：瀧 断子 委 員：瀧断子、草薙美穂、菅原千鶴子、百々瀬いづみ、相内泰三、今崎裕子 事務局：学務課 堀切俊介 就職相談室 櫻澤倫子
委員会開催数	11回
審議・報告事項	
【主な審議事項】 ・2012 年度活動計画の確認について ・2012 年度役割分担について ・2012 年度就職ガイダンス確認 ・就職開拓グッズ作成の確認（ボールペン・クリアフォルダ） ・就職礼状について ・就職事務処理確認 ・2012 年度重要課題について - 看護学科：病院連携の提案を受けての基本方針の検討 - 栄養学科：管理栄養士の需要と供給の状況の把握から、学科の就職基本方針の検討 ・就職相談室ニュースについて ・2013 年度公務員試験について ・就職相談週間について ・2012 年度後期就職ガイダンス業者について ・予算の流用について ・出張関連参加者確認 ・栄養士職求人依頼の送付について ・2013 年度ガイダンス方針（学務課） ・就職支援に関するアンケートについて ・2013 年度就職ガイドブック編集 ・2013 年度就職委員会予算について ・2013 年度就職開拓グッズについて（大学広報を兼ね就職用大学案内を作成） ・2013 年度予算ヒヤリングの報告及び検討事項 ・卒後教育について	

【主な報告事項】

- ・ 2012 年度予算についての確認
- ・ 会議・セミナー報告
- ・ 就職相談室報告及び 2011 年度卒業生就職状況
- ・ 就職礼状発送報告
- ・ ガイダンス報告
- ・ 就職相談室ニュースの父母懇談会への配布について
- ・ 看護学科 2012 年度重要課題への対応
- ・ 調剤薬局からの管理栄養士の求人票について
- ・ 栄養学科公務員試験結果報告（相内委員）
- ・ 抜粋パンフレット作成費用について
- ・ クリスマスカードの発送について（過去 3 年分の就職先のリストを提出）
- ・ 2013 年度予算案提出報告
- ・ 就職未内定者への卒業後の情報提供のためのアドレス登録について

2012年度 研究倫理委員会活動報告

委員会組織	委員長：堀井泰明 委員：園生陽子、大久保岩男、斉藤昌之、荃津智子、鈴木純子
委員会開催数	8回
審議・報告事項	
[主な審議事項] ・書類提出締切日、委員会開催日について ・研究審査申請書審査について（審査件数 30 件） ・「利益相反自己申告書」の提出について [主な報告事項] ・栄養学科卒業研究に関わる研究審査について（審査件数 11 件） ・「臨床研究に関する倫理指針」の周知徹底について	

2012年度 衛生委員会活動報告

委員会組織	委員長：丸山知子 委員：樟本賢首、久川陽子、勝野由美子、川口雄一
委員会開催数	3回
審議・報告事項	
[主な審議事項] ・副委員長の選出について ・校内定期巡回について ・インフルエンザ予防接種・乳がん検診について [主な報告事項] ・定期健康診断結果について ・校内定期巡回結果（2回）について	

2012年度 キャンパス・ハラスメント対策委員会活動報告

委員会組織	委員長：須藤桃代 委員：山部秀子、伊藤進、平山恵美子、佐保末男、平野敦子
委員会開催数	<u>6</u> 回
審議・報告事項	
[主な審議事項] ・ガイドラインの作成について ・相談員マニュアルの作成について ・講演会について ・学生委員の募集について ・2013 年度活動計画および予算について [主な報告事項] ・規程の改正について ・新入生オリエンテーションについて ・ガイドラインの配布について ・学生委員の募集について 以上	

ⅩⅣ. 図書館の利用状況

2012年度入館者統計(人数)

学科・学年	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
看護学科	1,174	1,367	1,500	1,735	990	1,153	1,522	1,700	1,551	1,019	341	80	14,132
栄養学科	726	895	891	1,296	496	536	904	916	547	587	387	188	8,369
助産研究科	140	105	107	38	71	68	120	92	45	24	19	14	843
看護学専攻	42	69	47	28	18	15	29	27	25	34	25	31	390
栄養管理学 専攻	12	2	8	8	3	3	0	5	1	1	0	0	43
科目等履修生	0	0	0	1	0	0	0	0	1	0	0	0	2
教職員	144	192	185	198	167	170	187	163	140	96	95	76	1,813
学外者	55	55	89	61	70	71	49	35	16	21	29	18	569
合計	2,293	2,685	2,827	3,365	1,815	2,016	2,811	2,938	2,326	1,782	896	407	26,161

2012年度図書・視聴覚資料貸出統計

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
看護学科	884	1,012	991	921	844	1,225	1,231	1,004	871	358	182	81	9,604
栄養学科	612	803	751	728	274	314	475	599	398	209	178	31	5,372
助産研究科	107	166	163	59	141	86	99	175	75	25	29	26	1,151
看護学専攻	70	86	81	34	36	16	42	55	36	42	33	22	553
栄養管理学 専攻	3	3	0	15	5	3	3	5	0	0	0	0	37
科目等履修生	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
教職員	233	238	221	152	167	194	222	230	129	137	84	80	2,087
学外者	18	10	13	6	14	5	0	0	5	7	4	0	82
合計	1,927	2,318	2,220	1,915	1,481	1,843	2,072	2,068	1,514	778	510	240	18,886

XV. 施設・設備の状況

大学設置基準との対比

(単位：㎡)

	本学の現有面積	大学設置基準面積	大学設置基準との差 (基準外を除く)
校地面積	30,390	6,910	23,550
校舎面積	14,124	6,402	7,722

校舎内訳

	建設年	経過年数	面積(㎡)	備考
1号館	1976 (S51)	35	937.76	2階建
2号館	1995 (H 7)	16	707.43	2階建 (耐震構造)
3号館	1963 (S38)	48	1,977.01	3階建 (耐震補強済)
4号館	1971 (S46)	40	2,429.06	3階建 (耐震補強済)
5号館	1980 (S55)	31	396.27	2階建
6号館	2000 (H12)	11	2,674.91	6階建 (耐震構造)
7号館	2002 (H14)	9	2,330.13	4階建 (耐震構造)
8号館	2004 (H 7)	7	1,855.69	4階建 (耐震構造)
体育館	1976 (S51)	35	736.52	
中沼グラウンド 更衣室	1992 (H 4)	19	79.38	平屋建
計	—	—	14,124.16	

学部・大学院研究科ごとの講義室、演習室等の面積・規模

学部・研究科	講義室・演習室・ 学生学習室等	室数	総面積 (㎡)	専用・ 共用の 別	収容 人員 (総数)	学生総 数	在学生1 人当り面 積(㎡)	備考
看護栄養学部	講義室	12	1,519	共用	1,223	754	2.01	看護栄養学研究科と 共用
	演習室	12	345	共用	221	805	0.52	大学院と共用
	学生学習室	2	288	共用	160	754	0.38	
看護栄養学研究科	講義室							
	学生学習室	2	272	共用	92	11	24.72	助産研究科と共用
助産研究科	講義室	2	227	専用	51	51	4.45	
	学生学習室	1	246	共用	82	62	3.96	看護栄養学研究科と 共用
体 育 館		1	737					
講 堂		1	737					

学部 of 学生用実験・実習室の面積・規模

分 類	室 名	収容人数	面積 (㎡)	1人当り面積 (㎡)
実験・実習室 (看護学科)	第1看護実習室	100	346	3.46
	第2看護実習室	10	41	4.10
	第3看護実習室	20	46	2.30
	第4看護実習室	10	23	2.30
	第5看護実習室	10	27	2.70
実験・実習室 (栄養学科)	理化学実験室	60	223	3.72
	生理学実験室・微生物学実験室	65	205	3.15
	動物実験室	5	6	1.20
	給食経営管理自習室・実習食堂	130	350	2.69
	第2臨床栄養実習室	60	386	6.43
	官能検査室	10	30	3.00
	食品・調理実験実習室(準備室含む)	60	257	4.28
	第1カウンセリング室	3	8	2.67
	第2カウンセリング室	3	9	3.00
	栄養教育実習室	60	155	2.58
	第1臨床栄養実習室	15	45	3.00
実験・実習室(共通)	和室	10	69	6.90
情報処理室	第1情報処理室	60	113	1.88
	第2情報処理室	56	138	2.46
計		747	2,477	3.32

大学院 of 学生用実験・実習室の面積・規模

分 類	室数	総面積 (㎡)	収容人数 (総数)	収容人員1人 当りの面積 (㎡)	使用研究科等	備考
実習室	19	2,477	747	3.32	看護栄養学研究科	看護栄養学部と共用
実習室	1	174	40	4.35	助産研究科	
計	20	2,651	787	3.37	—	—

XII. 財務状況

貸借対照表関係の財務比率表

(%)

	比率	算式	2012年度	他法人
1	固定資産構成比率	$\frac{\text{固定資産}}{\text{総資産}}$	72.6	75.7
2	流動資産構成比率	$\frac{\text{流動資産}}{\text{総資産}}$	27.4	24.3
3	固定負債構成比率	$\frac{\text{固定負債}}{\text{総資金}}$	5.0	6.9
4	流動負債構成比率	$\frac{\text{流動負債}}{\text{総資金}}$	11.9	10.7
5	自己資金構成比率	$\frac{\text{自己資産}}{\text{総資金}}$	83.1	82.4
6	消費収支差額構成比率	$\frac{\text{消費収支差額}}{\text{総資金}}$	4.2	△13.0
7	※ 内部留保資産比率	$\frac{\text{内部留保資産}}{\text{総資産}}$	40.2	16.5
8	固定比率	$\frac{\text{固定資産}}{\text{自己資金}}$	87.4	91.8
9	固定長期適合率	$\frac{\text{固定資産}}{\text{自己資金}+\text{固定負債}}$	82.4	84.8
10	流動比率	$\frac{\text{流動資産}}{\text{流動負債}}$	229.8	226.4
11	総負債比率	$\frac{\text{総負債}}{\text{総資産}}$	16.9	17.6
12	負債比率	$\frac{\text{総負債}}{\text{自己資金}}$	20.3	21.4
13	前受金保有率	$\frac{\text{現金預金}}{\text{前受金}}$	242.2	258.4
14	退職給与引当預金率	$\frac{\text{退職給与引当特定預金(資産)}}{\text{退職給与引当金}}$	81.5	69.8
15	基本金比率	$\frac{\text{基本金}}{\text{基本金要組入額}}$	99.4	96.9
16	減価償却比率	$\frac{\text{減価償却累計額(図書を除く)}}{\text{減価償却資産取得価格(図書を除く)}}$	49.3	47.6

※内部留保資産=その他の固定資産 ＋ 流動資産 － 総負債

(注)「他法人」は日本私立学校・共済事業団の「今日の私学財政」2012年度版による。

消費収支計算書関係の財務比率表

(%)

	比率	算式	2012年度	他法人
1	人件費比率	$\frac{\text{人 件 費}}{\text{帰属収入}}$	61.5	55.9
2	人件費依存率	$\frac{\text{人 件 費}}{\text{学生生徒等納付金}}$	81.2	70.2
3	教育研究経費比率	$\frac{\text{教育研究経費}}{\text{帰属収入}}$	23.2	26.8
4	管理経費比率	$\frac{\text{管理経費}}{\text{帰属収入}}$	4.5	11.1
5	借入金等利息比率	$\frac{\text{借入金等利息}}{\text{帰属収入}}$	0.0	0.4
6	消費支出比率	$\frac{\text{消費支出}}{\text{帰属収入}}$	10.6	4.2
7	帰属収支差額構成比率	$\frac{\text{帰属収入} - \text{消費支出}}{\text{帰属収入}}$	89.4	98.8
8	消費収支比率	$\frac{\text{消費支出}}{\text{消費収入}}$	98.1	107.4
9	学生生徒等納付金比率	$\frac{\text{学生生徒等納付金}}{\text{帰属収入}}$	75.8	79.7
10	寄付金比率	$\frac{\text{寄付金}}{\text{帰属収入}}$	0.9	1.4
11	補助金比率	$\frac{\text{補助金}}{\text{帰属収入}}$	15.7	11.4
12	基本金組入率	$\frac{\text{基本金組入額}}{\text{帰属収入}}$	10.3	10.7
13	減価償却費比率	$\frac{\text{減価償却額}}{\text{消費支出}}$	7.6	10.9

編集後記：

天使大学大学院助産研究科年報 - 自己点検・評価報告書 - 2012 年度版が発行となりました。

年報は、教育研究活動の評価を教職員間で可視化するシステムづくりの一つとして定着することを目指しており、その内容をまとめたものとして教職員の皆様には大学全体における次への課題を明らかにするものとして利用していただくものになればと考えております。今後も教職員の皆様と共に考え、そして共に取り組む自己点検評価活動でありたいと思います。大学の自己点検評価活動についてのご協力、ご理解を今後どうぞよろしくお願いいたします。

2014 年 11 月

自己点検評価委員会委員長 荃津 智子

2014 年度 自己点検評価委員会

委員長：荃津 智子（看護学科）

委員：大久保岩男（看護栄養学研究科長）

園生 陽子（助産研究科長）

前田 明子（看護学科長）

山部 秀子（栄養学科長）

川口 雄一（教養教育科長）

佐保 末男（事務局長）

金澤 康子（栄養学科）

総務課：高山 美香

2 0 1 2 年度

天使大学大学院 助産研究科

年 報

－自己点検・評価報告書－

2014 年 11 月発行

自己点検評価委員会

天使大学

〒065-0013 北海道札幌市東区北 13 条東 3 丁目 1 番 30 号

TEL 011-741-1051 FAX 011-741-1077

<http://www.tenshi.ac.jp>
